



# サッカー研究(2)-アジア地域における日本サッカーの評価-

加納, 哲也

---

(Citation)

神戸大学発達科学部研究紀要, 8(2):239-267

(Issue Date)

2001-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81000431>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81000431>



## サッカー研究 (2)

### －アジア地域における日本サッカーの評価－

加納哲也\*

A Study of Association Football(Part2):  
Valuation of Japan Soccer in Asian Area

Tetsuya KANO

#### 第1章 序章

サッカーの歴史は世界的にはスポーツの中でもかなり古く、中世イギリスに遡ることができるが、地球規模に発展した経緯、その要因についてはサッカー研究(その1)で詳細に述べた。

我が国の場合、その歴史を約130年ほど前に遡ることができるのである。

1936年ベルリンオリンピックにおいて優勝候補と言われたスウェーデンを3-2で破り、当時としては奇跡と言われる結果は残しているものの、現在のようにポピュラー的スポーツとして注目されるようになったのは、それほど古くなく、1964(昭和39)年東京、1968(昭和43)年メキシコで開催された両オリンピック大会以後の1960年代中期以降とすることができる。その契機として、東京オリンピックで優勝候補と言われた南米アルゼンチンを3-2で敗り、次のメキシコ大会ではナイジェリア、フランスにそれぞれ3-1で勝利しブラジル、スペインとは引き分けベスト4に進出し、さらに3位決定戦では開催国である地元メキシコを2-0で下し、堂々の3位(銅メダル)を獲得したことが上げられる。

その後、全国的にサッカーブームと言われる状況が生じ、日本各地では少年を対象にしたサッカー教室などが開催されたり、スポーツ少年団などが日本各地に結成され盛り上がりが見られた。

国内では社会人を中心とした日本リーグが開始され順調に進展するかに見えたが、その後の我が国サッカーは、むしろ逆に記録面からはワールドカップ、オリンピック大会など世界規模の大会への参加はもちろんのこと、アジア地域においても地域予選を通過することができず、長い低迷の時期に突入することになるのである。

苦難の末、1980年代後半以降のサッカー指向が世界を視野に入れるに至り、それまでの強化方策では効果が得られないとして1990年代初頭には国内サッカー界にもプロ選手が登場することになるのである。そして、約30年前、すなわち1964年の東京オリンピック時に蒔かれた種がようやく大きな実を

\*神戸大学発達科学部身体行動論

(2000年10月31日 受付)  
(2000年11月8日 受理)

つけ始めたのが1993年にスタートしたサッカープロリーグ（Jリーグ）の誕生であり、ようやくその成果が見られ始めたのではないかと期待を抱かせる現象が現在の日本サッカーの実状と考えられる。

現在でこそ国内でもサッカーに対する関心は野球に次ぐものと考えられることができるが、世界的レベルで日本サッカーを展望するとき、そこには幾重もの関門が見られる。

そこでサッカーが我が国へ紹介されて以来、その発展の経緯、過程を検証することは我が国のサッカー史的見地からも重要なことと考える。

また現在の国際サッカー連盟（Federation Internationale de Football Association:以下FIFAと記す）は、世界を6地域に分割し統括している。従って、ワールドカップにおいてもそれぞれの地域に与えられる出場枠を巡って地域予選という形で出場権を獲得しなければならない。

さらに国際オリンピック委員会（International Olympic Committee:IOC）が主催するオリンピック大会においても同様の形式で地域代表を決定しているのである。この形式は今後も継承されるものと考えられる時、我が国におけるサッカーの一般的普及・発展という命題はそれなりに認知されているものと考えられるが、世界的レベルへの飛躍を期待するならばアプローチとして何としてもワールドカップ、オリンピック大会への出場権を獲得することを果たさなければならない。このことは自動的に、先ずはアジア地域における実績を残すことが不可欠の条件である。

そこで本稿では、1873（明治6）年に日本にサッカーが紹介されて以来1998（平成10）年ワールドカップ（フランス）大会までのアジア地域におけるアジアサッカー連盟（Asian Football Confederation:AFC）所属の各国代表チームとの対戦成績を時系列的に検索し、日本サッカーの戦力的発展を確認しようとするものである。

## 第2章 黎明期の日本サッカー

稿末に添付した『日本サッカーに関する年表』に示すように、日本に初めてサッカーを紹介したのは、一般的定説として、1873（明治6）年の秋、東京・築地の海軍兵学校寮に教師として来日した英国海軍の副艦長のアーチフォールド・ルシアス・ダグラス少佐と33人の将兵であったと伝えられている。軍人達が訓練の余暇に自分達のレクリエーションとして、また訓練兵の体力強化のためにフットボールを行ったとされている。しかし、ダグラス少佐などが約1年の滞在で帰国してしまうと、その後この筋からのフットボールの発展は見られなかった。

この時期の日本はそれまで鎖国政策をとっていたが、1860年代を迎えるに至り、国の情勢は急速に開国の方向へ向かわざるを得なかった。1868（明治元）年すなわち明治維新は国防面では陸軍、海軍の2局で司ることになり、1869（明治2）年には陸軍はフランス、海軍はイギリス式を採用することが布告され、ダグラス少佐らが来日したのは丁度このような時期だった。

また、横浜の在住外国人スポーツクラブY.C.A.C.（Yokohama Country and Athletic Club以下Y.C.A.Cと記す）の創設者J.P.モリソン（J.P.Mollison）の『回顧録』によれば、1873（明治6）年には、すでに横浜港に寄港するイギリス海軍の連隊が手近な平らな広場を使ってフットボールを行い、軍人対市民のおもしろい試合がたびたび開催されていたと述べられている。

1863（文久3）年にロンドンにサッカー協会（The Football Association:以下FAと記す）が組織され、統一ルールが制定されてから丁度10年目の1873（明治6）年に、日本にサッカーが紹介されたのであるが、イギリスでは既にその時期に全英選手権大会（FA杯大会）の第3回目を迎えていたのである。

この年代の規則ではゴールのバーに関する指示もなく、ゴールキーパーは自分のゴールを守るために手を使ってもよいとされているが、手を使える範囲は自分の陣地内、すなわちハーフラインまでが許されていた時代である。しかし、オフサイドは厳重だったから簡単にパスができずドリブルが主な

攻撃法だった。

日本蹴球協会編『日本サッカーのあゆみ』(1974(昭和49)年、講談社)の横浜居留地のイギリス人のプレーというイラストには、富士山らしき山を背景に柵が設けられた広場で行われている外人のプレーをみることができるのである。それは必ずしも現在行われているサッカーとはほど遠いものであり、サッカーとラグビーが混在したプレーが描かれ、それを柵の外から見物する日本人の姿は当時の風俗を表しているのである。

このように当時は等心球の丸いボールで現在のサッカーともラグビーともつかないフットボールが行われ、特に居留外国人に人気を博したが、それを日本人がこの外国のボールゲームをフットボールであると理解していたかは定かではない。

その当時の我が国におけるフットボールに対するとらえ方がどのようなものであったかについてF. W. ストレンジ(F. W. Strange)は『Outdoor Games』(1883(明治16)年)の中で「Foot ball」と紹介し、坪井玄道・田中盛業編『戸外遊戯法』(1885(明治18)年、金港堂)ではフットボール(蹴鞠の一種)として競技のやり方が紹介されている。

東京高等師範学校校友会蹴球部が発行した『FOOT BALL』(1908(明治41)年 大日本図書会社)には、日本に紹介された当初から明治20年までのフットボールの試合について次のように紹介されている。

「我が国各地に広まったようであるけれども、その方式は種々様々である。思うに伝え伝え行くうちに誤って伝え、あるいは自分勝手に方式をたてたのもあろう。それまで各地で行われているのを見ると実に千態万状であるが、多くは具徒にボールばかりあって、使い途を知らず一つのボールを追うて数百人が押し合うような乱暴な事をしている」

このことから先に記述したように当初はサッカー、ラグビーが明確に二分されてはいなかったことがうかがえる。日本には古くから蹴鞠があり、そしてそれが上流社会の人だけに許された優雅な遊びとして大衆の憧れであった。したがってダクラス少佐達のフットボールを「異人さんの蹴鞠」と受け取ったのも無理のないことである。

いずれにしてもイギリス軍人が日本に持ち込んだフットボールが発展したことには違いないが、その発展はどのような経緯を経て現在に至ったかを検討する必要がある。

我が国の場合、教師が生徒に教えたものが発展したという特徴が見られる。サッカーの母国イギリスにおいてもパブリックスクールという教育場面に取り入れられたという経緯は類似しているが、その後の発展は少し異なっている。

日本の学問教育の主流が儒教中心だった江戸時代に昌平校学問所として多くの学者を集め直接管理するようになったのは1704(宝永元)年からである。その後、昌平学校、大学校となり、後の東京大学や文部省の母体になるのであるが、教師を養成するためには師範学校が必要となり1872(明治5)年に東京師範学校が昌平校に隣設された。

学校教育の特別部門として文部省がアメリカからG. A. リーランドを招聘し、体操伝習所を開設し、学生が授業を受けるようになると、坪井玄道はリーランドを補佐して日本の学校で行う体操の骨子を作成したり、体育専門教師の養成に努めた。伝習所の卒業生が全国各地に教師として赴任し、統一的な考え方の体操(体育)はこのころすでに全国的に広がり、フットボールも正規のゲームではないにしろ対列フットボールとか円陣フットボールといった遊戯的なものとして広まった。

フットボールを持ち込んだイギリス海軍一行の後は遅々として進まなかった日本のフットボール界では、英語教育の目的で若いイギリス人教師が多く来日した事により、フットボールを学ぼうえでも

非常に大きな影響をおよぼした。

1902（明治35）年に広島高等師範学校が開設されると高等師範学校を東京高等師範学校（以下東京高師と記す）と改称し、この両校が東西の核となった。さらに東京高師は1904（明治37）年には横浜まで遠征し、横浜の在日外国人クラブのY.C.A.C.と練習試合を行っている。

日本においてこのように初期のゲームが行われ始めた頃、すなわち1888（明治21）年から横浜在住の外国人クラブY.C.A.Cと神戸在住の外国人クラブK.R.A.C. (Kobe Regatta & Athletic Club)の間でフットボールがインターポートマッチ（Inter Port Match）として行われていたのである。このことは日本のサッカー発展には大きな影響をおよぼすことになったのである。

### 第3章 協会設立と全国大会の開催・初の国際試合

1912（明治45・大正元）年の第5回オリンピック（ストックホルム）大会に出場したマラソンの金栗四三と短距離の三島弥彦の2選手により、外国のスポーツ事情が広く国内に紹介された。

そして1913（大正2）年からフィリピン、中国、日本の3国が持ち回りで開催した極東オリンピック大会が1917（大正6）年に第3回極東選手権大会と改称され、東京・芝浦で開催された。大日本体育協会の全面参加をもとに日本サッカーも初の公式国際試合として出場した。

日本代表を選ぶにあたって、当時、東京では青山師範や豊島師範が力をつけ、また、関西でも御影師範、奈良師範、関西学院などが大阪朝日新聞社主催で予選を行い代表権を獲得したいと考えるほどに成長していた。しかし、予選が行われることなく東京高師が推薦で代表として出場したのである。対戦した中国、フィリピンに対して0-5、2-15と全く問題にならず、結果的に中国が優勝した。惨敗に終わったものの、この大会でコーナーキックを直接ヘディングで得点するなど習得するものも多かった。

翌年の1918（大正7）年には、大阪毎日新聞社が中心になり、豊中において「日本フットボール大会」が開催され、東京でも関東蹴球大会、中京では日本蹴球大会など主として中等学校を対象にした大会が開かれるようになった。

このような実態を外国通信社が日本にも国内サッカーを統括する団体が組織され全日本選手権大会の地方予選が各地で同時に開催されたとする誤報を伝えた。この記事によりイギリスFAは1919（大正8）年に大使館を通じて大銀カップを寄贈してきたのである。

しかし、実際には当時まだ日本には全国的にサッカーを統括する組織は設立されていなかった。そのような状況下において、1921（大正10）年に第5回極東選手権大会（上海）に参加するにあたり、前回、単独チームで惨敗したことにより選抜チームを結成し、関東、関西の予選を経て全関東蹴球団が上海へ遠征したのである。結果的にはフィリピン、中国を相手に2戦2敗となったが、この敗戦で日本の競技界、政府もスポーツに対する関心を高めた。そして、協会設立に至るまでには会長問題、協会経費問題などが山積していたが、ようやく1921（大正10）年に「大日本蹴球協会」(The Football Association of Japan)の設立に至ったのである。

協会の設立後、最大の事業として全国優勝大会すなわち全日本選手権大会の開催が最大の目標になった。当時、全国に65チームが存在する事が分かっていたが、さらに一般に普及するために全国を4予選地区（東部、中部、近畿、西部）に分割し、各地区の代表チームが東京で全国決勝大会を行うという方法を採用した。

このように日本のサッカーは東京高師が核となり、その卒業生が教育の場に持ち込んで日本各地に拡げたという系図になるのであるが、教育の現場に取り入れたことが比較的短期間で全国的な普及に効果的だったと考えることができる。

1921(大正10)年に懸案の第1回全日本選手権大会予選が開催され、東部地区は東京蹴球団、中部地区は名古屋蹴球団、そして近畿地区は大阪毎日新聞社の推薦による御影師範、中国、九州地方を区域とする西部地区は山口高等学校がそれぞれ代表となった。

4地区代表による全国優勝大会は日比谷公園運動場で開催された。西部地区代表の山口高校が棄権したので3チームによる戦いとなり、東京蹴球団が御影師範を1-0で破り初代チャンピオンとして先に述べたイギリスから贈られたFA杯を手にしたのである。この大会が戦争のため中止せざるを得なかったことや、名称の変更があったものの現在も継続されている「天皇杯全日本選手権大会」である。

蹴球協会の設立により、公式に全日本選手権大会を開催したことによる他に与えた影響は計り知れなく大きく、この後、学生の間でも独自にリーグ戦を開催することになるのである。すなわち関東では1922(大正11)年、東京高師、東大、早稲田高等学院、商大の4校が独自に対等の立場で自校の学生、生徒であることを確約して大学専門学校4校リーグを開始した。『日本サッカーのあゆみ P.72』を引用すると、この時すでに現在のリーグ戦の形式が明確にでき上がっていたことが伺い知れる。即ち、「リーグ試合という形式である以上、同点で終了すれば引き分けで延長はしない。コーナーキックだとかゴールキックの多い少ないは問題にしない。勝ち点という制度は、試合に勝てば2点、引き分ければ両チーム1点ずつ、負ければ0点とし、全試合を通じて勝ち点の総計で優劣を決め、もし点が同じになった場合には再試合をやって順位を決める。予定したキックオフの時間に遅れた者に、途中からの参加は認めるが、チームが成立しない時は棄権とみなして厳しく運営する」と書かれているが、勝ち点制度は現在のリーグ形式そのままである。しかし、興味ある記述はコーナーキック、ゴールキックの項であり、この文語が盛り込まれた背景には、協会の設立以前に行われた大会において、この各キック数により勝敗が決められたことが現実にあったことを裏付けるものである。同点で試合が終了したときにコーナーキックが多い方が勝ちとしたり、ゴールキックが多い方が負けたりとしたことが1919(大正8)年日本フットボール大会のころに現実的であった。しかし、ゴールを狙わないでコーナーキックやゴールキックを多くしたいとするプレーがみられるようになり、サッカー試合の本質に合致しないのということでやがて廃止になった。

ちなみに現在、FIFAも特にカップ戦(トーナメント方式)で採用されているPK戦(ペナティキックによる勝敗決定法)は、従来抽選で行われていた方法を1970(昭和45)年から採用したもので比較的新しいルールである。

数少ない学校でスタートしたカレッジリーグは、やがて1924(大正13)年には関東では1部6校、2部6校の12校で部制を採用し各部最下位と上位が入れ替えを行うなど、あらたに「ア式蹴球東京カレッジリーグ」として運営方法も整備され隆盛を極めるように発展した。

関西でもこの年には関西大学、関西学院、神戸高商の3校で「関西専門学校ア式蹴球連盟」として3試合をおこなった。1927(昭和2)年に1部5校、2部4校の2部制をしき、参加校の増加により1935(昭和10)年には3部制とするまで加盟校も増加した。

この関東、関西における学生リーグは年を経るに従い参加校に増加がみられ、1929(昭和4)年には学生のチャンピオンを決める東西両リーグ優勝校の対抗戦、すなわち東西対抗が行われるようになった。そしてこのリーグが現在実施されている関東、関西また各地域の学生リーグ戦へと発展するのである。この当時、この東西対抗の勝者こそ真の日本一と考えられるまでに学生リーグの実力は向上していたのである。

ここに至るまでの日本サッカーの黎明期におけるイギリス人、とりわけダグラス少佐一行をはじめとする外国人の功績には大きなものがあるが、特にチョー・ディン(Kyaw Din)はそれまでのキック・アンド・ラッシュ戦法が大勢を占めていた当時の日本のサッカーを大きく変化させた。

彼はビルマから東京工業高校への留学生で、1921年(大正10)年に極東選手権大会に遠征した全関

東蹴球団を指導したり、1923（大正12）年の最初の全国高等学校（旧制）選手権大会では早稲田高等学院を優勝に導いたりしたことにより、多くの高校が指導を懇願するようになった。指導対象が高校生であったので中学生とは異なり分析的・建設的な思考能力に長けていたこともあって、科学的にサッカーを考える道を開いたともいえる。しかも、1923（大正12）年には、『How to play Association Football』なる指導書を出版し、強いキックをすること、サイドキックでパスもシュートも行うなど、その重要性やドリブルの際のドッジング（フェイント）、1人で無理に抜かないで味方に協力させパスを使えば楽にショートパスで抜けるなどパスの重要性を説き、ショートパス戦術を確立した。

1925（大正14）年にチョー・デインはビルマに帰国したが、彼の指導の成果は、その後1927（大正15）年第8回極東選手権大会（上海）で早大を中心とした代表チームが海外の国際試合において初めてフィリピンに勝利し、さらに1930（昭和5）年第9回極東選手権大会（東京）ではフィリピンに勝ち、中国とは3-3の引き分けで同位優勝という結果をもたらした。それまで国内でしか活躍の場を持たなかった日本のサッカーが次第にアジアを中心に活躍の場を拓けるキッカケになったのである。

この当時のサッカー界の主力は高等学校（旧制）が中心で関西大学や関西学院、さらに明治大学、早大、東大などが単独で上海や朝鮮へ遠征している。このように1920年代後半になると次第に国内から海外へ出ることにより、強力な対戦相手を求め実力向上を図ろうとする傾向が見え始めた。

蹴球協会の発足以来10年ほどの間に、それまで高師を除けばほとんどが中等学校が中心であったが、全日本選手権に続いて高等学校選手権大会や学生リーグの開始などで選手の平均年齢も高く、研究心も旺盛であり技術進歩の度合いも著しいものがあった。東大、早大、慶大、関学などが学生界では常にトップクラスを占め、全日本選手権大会ではこれらの大学のOBを交えた大学クラブチームがこの頃から増加した。

#### 第4章 国際舞台への進出

1929（昭和4）年にはFIFAへの加盟が認められた。

表1および表2は日本にサッカーが紹介されて以来、1998（平成10）年、日本が初めてワールドカップ（フランス）大会参加に至るまで、アジア諸国と対戦した代表チームの戦績を示したものである。

日本が初の国際試合を1917（大正6）年にフィリピン、中国と第3回極東大会で経験して以来10年の間、この両国には全く勝つことができなかったが、次第にその力量差は短縮され1926（昭和元）年についにフィリピンから1勝を挙げ、第9回大会で中国と同位優勝を勝ち取った。

このように極東諸国との対戦により漸次力を着け、極東の覇権を得て、いよいよアジアから世界の大会、すなわちオリンピック大会への参加を模索する段階に到達したのである。

1932（昭和6）年のロスアンゼルス大会は水泳で日本が大活躍した大会だったが、この大会では、アマチュア資格問題でIOCとFIFAが対立しサッカーが行われなかったため、次の1936（昭和11）年のベルリン大会を目指すことになったのである。ベルリン大会への参加申し込み国は16カ国で、日本は予選なしで出場することができた。

代表チーム編成には東大、早大、慶大の現役学生とOBによる選抜チームとして構成されていた。しかし、朝鮮半島の京城や平壤の優秀なチームが全日本選手権大会や明治神宮大会において優勝することにより代表選手選抜には大変苦勞をした。（注1）

日本がアジアから世界の舞台へ踏み出す第一歩の大会となったオリンピック（ベルリン）大会出場の日本代表チームのメンバーは次の通りである。

## 1936年オリンピック(ベルリン)大会日本代表選手メンバー

|     |             |
|-----|-------------|
| 監督  | 鈴木重徳(早大出)   |
| コーチ | 竹腰重丸(東京帝大出) |
|     | 工藤孝一(早大出)   |
| FW  | 加茂正五(早大)    |
|     | 川本泰三(早大)    |
|     | 加茂 健(早大)    |
|     | 高橋豊二(東京帝大)  |
|     | 西邑昌一(早大)    |
|     | 松永 行(文理大)   |
| HB  | 右近徳太郎(慶大)   |
|     | 種田孝一(東京帝大)  |
|     | 金容植(京城蹴球団)  |
|     | 笹野積次(早大)    |
|     | 立原元夫(早大出)   |
| FB  | 鈴木保夫(早大出)   |
|     | 竹内悌三(東京帝大)  |
|     | 堀江忠夫(早大)    |
| GK  | 佐野理平(早大)    |
|     | 不破 整(早大)    |

この大会はナチス・ドイツがスポーツを政治的宣伝道具として利用し、その威信を世界に広めたと評価される大会であったが、水泳の前畑、陸上競技三段跳び田島、棒高跳び西田、長距離の村社、短距離の吉岡と、日本にとっては多くの活躍が見られた大会だった。

とりわけサッカーにおいては予選なしで出場した日本が、戦前の予想では優勝候補と言われた北欧スウェーデンを1回戦で3-2で破る快挙を成し遂げたのである。続くイタリア戦は0-8と大敗したものの、この対スウェーデン戦の勝利は「ベルリンの奇跡」として、その後日本サッカーの心の糧となったことは言うまでもない。技術的には力と技術の劣性を、敏捷かつ執拗に動き回ることによってカバーし、巨軀に対しても捨て身に激突することによって対抗した。

この快挙の要因は日本が現地入りしてから地元のクラブチームとの練習試合で身につけた新しいフォーメーション(ポジションの取り方)だった。それまでの日本のサッカーでは最終のデフェンスラインは2FB制でフルバックは2人しか配置していなかったが、1925(大正14)年にオフサイドルールが改正されると、このシステムでは守り切れなくなっていたのである。この3FB(スリーバックシステム)制を短期間に身につけたことが勝利に非常に大きく影響したと、協会機関誌『SOCCER』復刊第2号の中でコーチの竹腰重丸は述べている。

それまで極東のフィリピン、中国が相手だったが、初の欧州遠征となったベルリンオリンピック大会で日本サッカーが学んだ収穫は、スウェーデンに勝利したことのみならず、その後プレーヤーのポジション取りに大きく影響を与え、いわゆるWMフォーメーションなるシステムを生むことになり、長い間このシステムが日本サッカーの主流システムとなったのである。

1939(昭和14)年以降1942(昭和17)年までは、中国、満州、フィリピン、蒙古等と東亜競技大会と称して近隣諸国と試合を試みているが、いずれも勝利し、極東では敵なしの強さを発揮するまでに



表1. アジア地域における日本チーム成績 (代表・オリンピックチーム)

| 試合年月日      | 試合結果             | 試合場所   | 大会名                  | 成績順位                    |
|------------|------------------|--------|----------------------|-------------------------|
| 1917 05 09 | ●日本 0-5 ○中華民国    | 芝浦     | 第3回極東大会              |                         |
| 1917 05 10 | ●日本 2-15 ○フィリピン  |        |                      |                         |
| 1921 05 30 | ●日本 1-3 ○フィリピン   | 芝浦     | 第5回極東大会              |                         |
| 1921 06 01 | ●日本 0-4 ○中華民国    |        |                      |                         |
| 1923 05 23 | ●日本 1-2 ○フィリピン   | 大阪     | 第6回極東大会              |                         |
| 1923 05 24 | ●日本 1-5 ○中華民国    |        |                      |                         |
| 1925 05 17 | ●日本 0-4 ○フィリピン   | マニラ    | 第7回極東大会              |                         |
| 1925 05 20 | ●日本 0-2 ○中華民国    |        |                      |                         |
| 1927 08 27 | ●日本 1-5 ○中華民国    | 上海     | 第8回極東大会              | 海外で外国チームに初勝利<br>中国と同位優勝 |
| 1927 08 29 | ○日本 2-1 ●フィリピン   |        |                      |                         |
| 1930 05 25 | ○日本 7-2 ●フィリピン   | 神宮     | 第9回極東大会              |                         |
| 1930 05 30 | △日本 3-3 △中華民国    |        |                      |                         |
| 1934 05 13 | ●日本 1-7 ○蘭領インド   | マニラ    | 第10回極東大会             |                         |
| 1934 05 15 | ○日本 4-3 ●フィリピン   |        |                      |                         |
| 1934 05 17 | ●日本 3-4 ○中華民国    |        |                      |                         |
| 1936 08 04 | ○日本 3-2 ●スウェーデン  | ベルリン   | オリンピック本大会<br>(ベルリン)  |                         |
| 1936 08 07 | ●日本 0-8 ○イタリア    |        |                      |                         |
| 1939 09 02 | ○日本 3-0 ●中華民国    | 満州・新京  | 日満華交歓大会              |                         |
| 1939 09 03 | ○日本 6-0 ●満州      |        |                      |                         |
| 1940 06 07 | ○日本 7-0 ●満州      | 神宮     | 東亜大会                 |                         |
| 1940 06 09 | ○日本 6-0 ●中華民国    |        |                      |                         |
| 1940 06 15 | ○日本 1-0 ●フィリピン   | 甲子園南   |                      |                         |
| 1942 08 08 | ○日本 6-1 ●中華民国    | 満州・新京  |                      |                         |
| 1942 08 09 | ○日本 3-0 ●満州      |        |                      |                         |
| 1942 08 10 | ○日本 12-0 ●蒙古     |        |                      |                         |
| 1951 03 07 | △日本 0-0 △イラン     | ニューデリー | 第1回アジア大会<br>(ニューデリー) | 3位                      |
| 1951 03 08 | ●日本 2-3 ○イラン     |        |                      |                         |
| 1951 03 09 | ○日本 2-0 ●アフガニスタン |        |                      |                         |
| 1954 03 07 | ●日本 1-5 ○韓国      | 神宮競技場  | W-CUP予選<br>(スイス)     |                         |
| 1954 03 14 | △日本 2-2 △韓国      |        |                      |                         |
| 1954 05 01 | ●日本 3-5 ○インドネシア  | マニラ    | 第2回アジア大会<br>(マニラ)    | 予選C組3位                  |
| 1954 05 03 | ●日本 2-3 ○インド     |        |                      |                         |
| 1955 01 11 | ○日本 1-0 ●ビルマ     | ラングーン  |                      |                         |
| 1955 10 09 | △日本 0-0 △ビルマ     | 後楽園    |                      |                         |
| 1956 06 03 | ○日本 2-0 ●韓国      | 後楽園    | オリンピック予選<br>(メルボルン)  |                         |
| 1956 06 10 | ●日本 0-2 ○韓国      | 後楽園    | オリンピック本大会            |                         |
| 1956 11 27 | ●日本 0-2 ○豪州      | メルボルン  |                      |                         |
| 1958 05 26 | ●日本 0-1 ○フィリピン   | 東京蹴球場  | 第3回アジア大会<br>(東京)     | 予選C組3位                  |
| 1958 05 28 | ●日本 0-2 ○香港      | 国立競技場  |                      |                         |
| 1958 12 28 | ●日本 2-6 ○マラヤ     | グラムプー  | 第2回ムルディカ大会           |                         |
| 1959 01 04 | ○日本 3-1 ●マラヤ     | ベナン    |                      |                         |
| 1959 01 10 | ○日本 4-3 ●シンガポール  | シンガポール |                      |                         |
| 1959 01 11 | ●日本 2-3 ○シンガポール  |        |                      |                         |
| 1959 09 02 | ●日本 2-4 ○香港      | グラムプー  | 第3回ムルディカ大会           |                         |
| 1959 09 03 | ○日本 4-1 ●シンガポール  |        |                      |                         |
| 1959 09 05 | △日本 0-0 △韓国      |        |                      |                         |
| 1959 09 06 | ●日本 1-3 ○韓国      |        |                      |                         |
| 1959 12 13 | ●日本 0-2 ○韓国      | 後楽園    | オリンピック予選<br>(ローマ)    |                         |
| 1959 12 20 | ○日本 1-0 ●韓国      |        |                      |                         |
| 1960 11 06 | ●日本 1-2 ○韓国      | ソウル    | W-CUP予選<br>(チリ)      |                         |
| 1961 06 11 | ●日本 0-2 ○韓国      | 国立競技場  |                      |                         |
| 1961 05 28 | ○日本 3-2 ●マラヤ     | 国立競技場  |                      |                         |
| 1961 08 02 | ●日本 2-3 ○マラヤ     | グラムプー  | 第5回ムルディカ大会           |                         |
| 1961 08 06 | ○日本 3-1 ●インド     |        |                      |                         |
| 1961 08 10 | ●日本 2-3 ○ベトナム    |        |                      |                         |
| 1961 08 15 | ●日本 0-2 ○インドネシア  |        |                      |                         |
| 1962 08 25 | ○日本 3-1 ●タイ      | ジャカルタ  | 第4回アジア大会<br>(ジャカルタ)  | 予選B組3位                  |
| 1962 08 29 | ●日本 0-2 ○インド     |        |                      |                         |
| 1962 08 30 | ●日本 0-1 ○韓国      |        |                      |                         |
| 1962 09 08 | △日本 2-2 △マラヤ     | グラムプー  | 第6回ムルディカ大会           |                         |
| 1962 09 12 | △日本 1-1 △パキスタン   |        |                      |                         |

## サッカー研究(2) —アジア地域における日本サッカーの評価—

|            |          |           |          |                     |        |  |
|------------|----------|-----------|----------|---------------------|--------|--|
| 1962 09 15 | ●日本 1-3  | ○ビルマ      |          |                     |        |  |
| 1962 09 21 | ●日本 1-2  | ○シンガポール   | シンガポール   |                     |        |  |
| 1963 08 08 | ○日本 4-3  | ●マレーシア    | クアラルンプール | 第7回ムルディカ大会          |        |  |
| 1963 08 10 | ○日本 4-1  | ●タイ       |          |                     |        |  |
| 1963 08 12 | ○日本 5-1  | ●南ベトナム    |          |                     |        |  |
| 1963 08 13 | ○日本 1-1  | △韓国       |          |                     |        |  |
| 1963 08 15 | ●日本 0-2  | ○台湾       |          |                     |        |  |
| 1964 03 03 | ○日本 2-1  | ●シンガポール   | シンガポール   |                     |        |  |
| 1964 10 14 | ○日本 3-2  | ●アルゼンチン   | 駒沢       | オリンピック本大会<br>(東京)   | 本大会出場  |  |
| 1964 10 16 | ●日本 2-3  | ○ガーナ      |          |                     |        |  |
| 1964 10 18 | ●日本 0-4  | ○チェコスロバキア |          |                     |        |  |
| 1964 10 20 | ●日本 1-6  | ○ユーゴスラビア  | 長居       |                     |        |  |
| 1965 03 11 | ○日本 4-1  | ●香港       | 香港       |                     |        |  |
| 1965 03 22 | △日本 1-1  | △ビルマ      | ラングーン    |                     |        |  |
| 1965 03 25 | ○日本 4-1  | ●シンガポール   | シンガポール   |                     |        |  |
| 1965 03 27 | △日本 1-1  | △マレーシア    | クアラルンプール |                     |        |  |
| 1966 12 10 | ○日本 2-1  | ●インド      | バンコク     | 第5回アジア大会<br>(バンコク)  | 3位     |  |
| 1966 12 11 | ○日本 3-1  | ●イラン      |          |                     |        |  |
| 1966 12 14 | ○日本 1-0  | ●マレーシア    |          |                     |        |  |
| 1966 12 16 | ○日本 5-1  | ●シンガポール   |          |                     |        |  |
| 1966 12 17 | ○日本 5-1  | ●タイ       |          |                     |        |  |
| 1966 12 18 | ●日本 0-1  | ○イラン      |          |                     |        |  |
| 1966 12 19 | ○日本 2-0  | ●シンガポール   |          |                     |        |  |
| 1967 09 27 | ○日本 15-0 | ●フィリピン    | 国立競技場    | オリンピック予選<br>(メキシコ)  |        |  |
| 1967 09 30 | ○日本 4-0  | ●台湾       |          |                     |        |  |
| 1967 10 03 | ○日本 3-1  | ●レバノン     |          |                     |        |  |
| 1967 10 07 | △日本 3-3  | △韓国       |          |                     |        |  |
| 1967 10 10 | ○日本 1-0  | ●南ベトナム    |          |                     | 本大会出場  |  |
| 1968 03 30 | △日本 2-2  | △豪州       | シドニー     |                     |        |  |
| 1968 03 31 | ●日本 1-3  | ○豪州       | メルボルン    |                     |        |  |
| 1968 04 04 | ○日本 3-1  | ●豪州       | アデレード    |                     |        |  |
| 1968 10 14 | ○日本 3-1  | ●ナイジェリア   | フェブラ     | オリンピック本大会<br>(メキシコ) | 3位銅メダル |  |
| 1968 10 16 | △日本 1-1  | △ブラジル     |          |                     |        |  |
| 1968 10 18 | △日本 0-0  | △スペイン     | メキシコ市    |                     |        |  |
| 1968 10 20 | ○日本 3-1  | ●フランス     |          |                     |        |  |
| 1968 10 22 | ●日本 0-5  | ○ハンガリー    |          |                     |        |  |
| 1968 10 24 | ○日本 2-0  | ●メキシコ     |          |                     |        |  |
| 1969 10 10 | ●日本 1-3  | ○豪州       | ソウル      | W-CUP予選<br>(メキシコ)   |        |  |
| 1969 10 12 | △日本 2-2  | △韓国       |          |                     |        |  |
| 1969 10 16 | △日本 1-1  | △豪州       |          |                     |        |  |
| 1969 10 18 | ●日本 0-2  | ○韓国       |          |                     |        |  |
| 1970 07 31 | ●日本 1-2  | ○香港       | クアラルンプール | 第14回ムルディカ大会         |        |  |
| 1970 08 02 | △日本 1-1  | △韓国       |          |                     |        |  |
| 1970 08 04 | △日本 0-0  | △タイ       |          |                     |        |  |
| 1970 08 08 | ○日本 4-3  | ●インドネシア   |          |                     |        |  |
| 1970 08 10 | ○日本 4-0  | ●シンガポール   |          |                     |        |  |
| 1970 08 16 | ○日本 3-2  | ●台湾       |          |                     |        |  |
| 1970 12 10 | ○日本 1-0  | ●マレーシア    | バンコク     | 第6回アジア大会<br>(バンコク)  | 4位     |  |
| 1970 12 12 | ○日本 1-0  | ●クメール     |          |                     |        |  |
| 1970 12 14 | ○日本 2-1  | ●ビルマ      |          |                     |        |  |
| 1970 12 16 | ○日本 2-1  | ●インドネシア   |          |                     |        |  |
| 1970 12 17 | ○日本 1-0  | ●インド      |          |                     |        |  |
| 1970 12 18 | ●日本 1-2  | ○韓国       |          |                     |        |  |
| 1970 12 19 | ●日本 0-1  | ○インド      |          |                     |        |  |
| 1971 09 23 | ●日本 0-3  | ○マレーシア    | ソウル      | オリンピック予選<br>(ミュンヘン) |        |  |
| 1971 09 27 | ○日本 8-1  | ●フィリピン    |          |                     |        |  |
| 1971 09 29 | ○日本 5-1  | ●台湾       |          |                     |        |  |
| 1971 10 02 | ●日本 1-2  | ○韓国       |          |                     |        |  |
| 1972 07 12 | ○日本 4-1  | ●クメール     | クアラルンプール | 第16回ムルディカ大会         |        |  |
| 1972 07 16 | ○日本 5-0  | ●スリランカ    |          |                     |        |  |
| 1972 07 18 | ○日本 5-1  | ●フィリピン    |          |                     |        |  |
| 1972 07 20 | ○日本 6-1  | ●ビルマ      |          |                     |        |  |
| 1972 07 22 | ●日本 1-3  | ○マレーシア    |          |                     |        |  |
| 1972 07 26 | ●日本 0-3  | ○韓国       |          |                     |        |  |
| 1972 07 28 | ○日本 1-0  | ●マレーシア    |          |                     |        |  |
| 1972 09 14 | △日本 2-2  | △韓国       | 東京       | 第1回日韓定期戦            |        |  |
| 1972 08 03 | ○日本 4-1  | ●フィリピン    | シンガポール   |                     |        |  |

|            |            |         |             |                       |        |
|------------|------------|---------|-------------|-----------------------|--------|
| 1972 08 05 | ●日本 0-1    | ○インドネシア |             |                       |        |
| 1973 05 16 | ●日本 1-2    | ○イスラエル  | ソウル         | W-CUP 予選<br>(西ドイツ)    |        |
| 1973 05 20 | ○日本 4-0    | ●南ベトナム  |             |                       |        |
| 1973 05 22 | ●日本 0-1    | ○香港     |             |                       |        |
| 1973 05 26 | ●日本 0-1    | ○イスラエル  |             |                       |        |
| 1973 06 23 | ●日本 0-2    | ○韓国     | ソウル         | 第2回日韓定期戦              |        |
| 1974 02 12 | ○日本 1-0    | ●シンガポール | シンガポール      |                       |        |
| 1974 02 20 | △日本 0-0    | ○香港     | 香港          |                       |        |
| 1974 09 03 | ○日本 4-0    | ●フィリピン  | テヘラン        | 第7回アジア大会<br>(テヘラン)    | 予選C組3位 |
| 1974 09 05 | △日本 1-1    | △マレーシア  |             |                       |        |
| 1974 09 07 | ●日本 0-3    | ○イスラエル  |             |                       |        |
| 1974 09 28 | ○日本 4-1    | ●韓国     | 国立競技場<br>香港 | 第3回日韓定期戦<br>アジアカップ予選  | 予選3組3位 |
| 1975 06 14 | ●日本 0-0 PK | ○香港     |             |                       |        |
| 1975 06 17 | ●日本 0-1    | ○北朝鮮    |             |                       |        |
| 1975 06 21 | ○日本 2-1    | ●シンガポール |             |                       |        |
| 1975 06 23 | ●日本 1-2    | ○中国     |             |                       |        |
| 1975 06 26 | ○日本 1-0    | ●香港     |             |                       |        |
| 1975 07 30 | ●日本 0-2    | ○香港     | ケララ         | 第19回ムルディカ大会           |        |
| 1975 08 02 | ●日本 0-2    | ○マレーシア  |             |                       |        |
| 1975 08 04 | ○日本 3-0    | ●バングラ   |             |                       |        |
| 1975 08 07 | ○日本 4-1    | ●インドネシア |             |                       |        |
| 1975 08 09 | ●日本 1-3    | ○韓国     |             |                       |        |
| 1975 08 11 | ○日本 4-0    | ●タイ     |             |                       |        |
| 1975 08 14 | ○日本 2-0    | ●ビルマ    |             |                       |        |
| 1975 09 08 | ●日本 0-3    | ○韓国     | ソウル         | 第4回日韓定期戦              |        |
| 1976 03 14 | ○日本 3-0    | ●フィリピン  | 国立競技場       | オリンピック予選<br>(モントリオール) |        |
| 1976 03 17 | ○日本 3-0    | ●フィリピン  |             |                       |        |
| 1976 03 21 | ●日本 0-2    | ○韓国     |             |                       |        |
| 1976 03 27 | △日本 2-2    | △韓国     | ソウル         |                       |        |
| 1976 03 31 | ●日本 0-3    | ○イスラエル  |             |                       |        |
| 1976 04 11 | ●日本 1-4    | ○イスラエル  | テルアビブ       |                       |        |
| 1976 08 08 | ○日本 5-1    | ●インド    | ケララ         | 第20回ムルディカ大会           |        |
| 1976 08 10 | ○日本 6-0    | ●インドネシア |             |                       |        |
| 1976 08 13 | △日本 2-2    | △ビルマ    |             |                       |        |
| 1976 08 16 | △日本 2-2    | △タイ     |             |                       |        |
| 1976 08 18 | △日本 0-0    | △韓国     |             |                       |        |
| 1976 08 20 | △日本 2-2    | △マレーシア  |             |                       |        |
| 1976 08 22 | ●日本 0-2    | ○マレーシア  |             |                       |        |
| 1976 12 04 | ●日本 1-2    | ○韓国     | 国立競技場       | 第5回日韓定期戦              |        |
| 1977 03 06 | ●日本 0-2    | ○イスラエル  | テルアビブ       | W-CUP予選<br>(アルゼンチン)   |        |
| 1977 03 10 | ●日本 0-2    | ○イスラエル  |             |                       |        |
| 1977 03 26 | △日本 0-0    | △韓国     | 国立競技場       |                       |        |
| 1977 04 03 | ●日本 0-1    | ○韓国     | ソウル         |                       |        |
| 1977 06 15 | ●日本 1-2    | ○韓国     | ソウル         | 第6回日韓定期戦              |        |
| 1978 05 23 | ○日本 3-0    | ●タイ     | 瑞穂          |                       |        |
| 1978 07 13 | △日本 0-0    | △イラク    | ケララ         | 第22回ムルディカ大会           |        |
| 1978 07 15 | ●日本 1-2    | ○インドネシア |             |                       |        |
| 1978 07 17 | ○日本 3-2    | ●シリア    |             |                       |        |
| 1978 07 19 | ●日本 0-4    | ○韓国     |             |                       |        |
| 1978 07 21 | ●日本 1-4    | ○マレーシア  |             |                       |        |
| 1978 07 23 | ●日本 1-2    | ○シンガポール |             |                       |        |
| 1978 07 26 | ○日本 4-0    | ●タイ     |             |                       |        |
| 1978 12 11 | ○日本 0-2    | ●クウェート  | バンコク        | 第8回アジア大会<br>(バンコク)    | 予選C組3位 |
| 1978 12 13 | ○日本 4-0    | ●バーレーン  |             |                       |        |
| 1978 12 15 | ●日本 1-3    | ○韓国     |             |                       |        |
| 1979 03 04 | ○日本 2-1    | ●韓国     | 国立競技場       | 第7回日韓定期戦              |        |
| 1979 05 31 | ○日本 4-0    | ●インドネシア | 西が丘         |                       |        |
| 1979 06 16 | ●日本 1-4    | ○韓国     | ソウル         | 第8回日韓定期戦              |        |
| 1979 06 27 | △日本 1-1    | △マレーシア  | ケララ         | 第23回ムルディカ大会           |        |
| 1979 06 29 | ○日本 2-1    | ●タイ     |             |                       |        |
| 1979 07 01 | ○日本 1-0    | ●ビルマ    |             |                       |        |
| 1979 07 04 | ●日本 0-1    | ○韓国     |             |                       |        |
| 1979 07 08 | △日本 0-1    | △マレーシア  |             |                       |        |
| 1979 07 11 | △日本 0-0    | △インドネシア |             |                       |        |
| 1979 07 13 | ○日本 3-1    | ●シンガポール |             |                       |        |
| 1979 08 23 | △日本 0-0    | △北朝鮮    | 平壤          |                       |        |
| 1980 03 22 | ●日本 1-3    | ○韓国     | ケララ         | オリンピック予選              |        |

## サッカー研究(2) アジア地域における日本サッカーの評価

|            |          |         |         |                        |                            |
|------------|----------|---------|---------|------------------------|----------------------------|
| 1980 03 24 | ○日本 10-0 | ●フィリピン  |         | (モスクワ)                 |                            |
| 1980 03 28 | ○日本 2-0  | ●インドネシア |         |                        | 日本はオリンピック<br>本大会全種目不<br>出場 |
| 1980 03 30 | △日本 1-1  | △マレーシア  |         |                        |                            |
| 1980 04 02 | ○日本 2-1  | ●ブルネイ   |         |                        |                            |
| 1980 06 09 | ○日本 3-1  | ●香港     | 広東      |                        |                            |
| 1980 06 11 | ●日本 0-1  | ○中国     |         |                        |                            |
| 1980 06 18 | ○日本 2-0  | ●香港     |         |                        |                            |
| 1980 12 22 | ○日本 1-0  | ●シンガポール | 香港      | W-CUP予選<br>(スペイン)      |                            |
| 1980 12 26 | ●日本 0-1  | ○中国     |         |                        |                            |
| 1980 12 28 | ○日本 3-0  | ●マカオ    |         |                        |                            |
| 1980 12 30 | ○日本 0-1  | ●北朝鮮    |         |                        |                            |
| 1981 02 08 | ●日本 0-1  | ○マレーシア  | クアantan |                        |                            |
| 1981 02 10 | △日本 1-1  | △マレーシア  | クアantan |                        |                            |
| 1981 02 17 | ○日本 1-0  | ●シンガポール |         |                        |                            |
| 1981 02 19 | △日本 0-0  | △シンガポール |         |                        |                            |
| 1981 02 24 | ●日本 0-2  | ○インドネシア | ジャカルタ   |                        |                            |
| 1981 03 08 | ●日本 0-1  | ○韓国     | 国立競技場   | 第9回日韓定期戦               |                            |
| 1981 06 02 | △日本 0-0  | △中国     | 大宮      | 韓国大統領杯                 |                            |
| 1981 06 19 | ○日本 2-0  | ○マレーシア  | 韓国      |                        |                            |
| 1981 06 21 | ●日本 0-2  | ○韓国     | 釜山      |                        |                            |
| 1981 08 30 | ○日本 2-0  | ●マレーシア  | クアantan | 第25回ムルディカ大会            |                            |
| 1981 09 03 | ○日本 3-2  | ●インド    |         |                        |                            |
| 1981 09 08 | ○日本 3-2  | ●UAE    |         |                        |                            |
| 1981 09 14 | ○日本 2-0  | ●インドネシア |         |                        |                            |
| 1981 09 18 | ●日本 0-2  | ○イラク    |         |                        |                            |
| 1982 03 21 | ●日本 0-3  | ○韓国     | ソウル     | 第10回日韓定期戦              |                            |
| 1982 06 02 | ○日本 2-0  | ●シンガポール | 広島      |                        |                            |
| 1982 11 21 | ○日本 1-0  | ●イラン    | ニューデリー  | 第9回アジア大会<br>(ニューデリー)   | ベスト8                       |
| 1982 11 23 | ○日本 3-1  | ●南イエメン  |         |                        |                            |
| 1982 11 25 | ○日本 2-1  | ●韓国     |         |                        |                            |
| 1982 11 28 | ●日本 0-1  | ○イラク    |         |                        |                            |
| 1983 02 25 | ●日本 0-1  | ○カタール   | ドーハ     |                        |                            |
| 1983 03 06 | △日本 1-1  | △韓国     | 国立競技場   | 第11回日韓定期戦              |                            |
| 1983 09 04 | ○日本 7-0  | ●フィリピン  | 国立競技場   | オリンピック予選<br>(ロスアンジェルス) |                            |
| 1983 09 07 | ○日本 10-1 | ●フィリピン  |         |                        |                            |
| 1983 09 15 | ○日本 2-0  | ●台湾     |         |                        |                            |
| 1983 09 20 | △日本 1-1  | △台湾     | 台北      |                        |                            |
| 1984 04 15 | ●日本 2-5  | ○タイ     | シンガポール  | オリンピック予選<br>(ロスアンジェルス) |                            |
| 1984 04 16 | ●日本 1-2  | ○マレーシア  |         |                        |                            |
| 1984 04 21 | ●日本 1-2  | ○イラク    |         |                        |                            |
| 1984 04 26 | ●日本 1-2  | ○カタール   |         |                        |                            |
| 1984 05 31 | ○日本 1-0  | ●中国     | 大宮      |                        |                            |
| 1984 09 30 | ○日本 2-1  | ●韓国     | ソウル     | 第12回日韓定期戦              |                            |
| 1985 03 21 | ○日本 1-0  | ●北朝鮮    | 国立競技場   | W-CUP予選                |                            |
| 1985 04 30 | △日本 0-0  | △北朝鮮    | 平壤      | (メキシコ)                 |                            |
| 1985 05 18 | ○日本 5-0  | ●シンガポール | 国立競技場   |                        |                            |
| 1985 06 04 | ○日本 3-0  | ●マレーシア  | 瑞穂      |                        |                            |
| 1985 08 11 | ○日本 3-0  | ●香港     | 神戸      | W-CUP予選                |                            |
| 1985 09 22 | ○日本 2-1  | ●香港     | 香港      | (メキシコ)                 |                            |
| 1985 10 26 | ●日本 1-2  | ○韓国     | 国立競技場   |                        |                            |
| 1985 11 03 | ●日本 0-1  | ○韓国     | ソウル     |                        |                            |
| 1986 09 20 | ○日本 5-0  | ●ネパール   | 韓国・大田   | 第10回アジア大会<br>(韓国・太田)   |                            |
| 1986 09 22 | ●日本 0-2  | ○イラン    |         |                        |                            |
| 1986 09 24 | ●日本 0-2  | ○クウェート  |         |                        |                            |
| 1986 09 28 | ○日本 4-0  | ●バングラ   |         |                        |                            |
| 1987 04 08 | ○日本 3-0  | ●インドネシア | 国立競技場   | オリンピック予選<br>(ソウル)      |                            |
| 1987 04 12 | ○日本 1-0  | ●シンガポール |         |                        |                            |
| 1987 06 14 | ○日本 1-0  | ●シンガポール | シンガポール  |                        |                            |
| 1987 06 26 | ○日本 2-1  | ●インドネシア | ジャカルタ   |                        |                            |
| 1987 09 02 | △日本 0-0  | △タイ     | バンコク    |                        |                            |
| 1987 09 15 | ○日本 5-0  | ●ネパール   | 国立競技場   |                        |                            |
| 1987 09 18 | ○日本 9-0  | ●ネパール   |         |                        |                            |
| 1987 09 26 | ○日本 1-0  | ●タイ     |         |                        |                            |
| 1987 10 04 | ○日本 1-0  | ●中国     | 広州      |                        |                            |
| 1987 10 26 | ●日本 0-2  | ○中国     |         |                        |                            |
| 1988 01 27 | △日本 1-1  | △UAE    | ドバイ     |                        |                            |
| 1988 01 30 | ●日本 0-2  | ○UAE    | アブダビ    |                        |                            |

|            |               |          |        |                     |                                                        |
|------------|---------------|----------|--------|---------------------|--------------------------------------------------------|
| 1988 02 02 | △日本 1-1       | △オマーン    | マスカット  |                     |                                                        |
| 1988 06 02 | ●日本 0-3       | ○中国      | 瑞穂     |                     |                                                        |
| 1988 10 26 | ●日本 0-1       | ○韓国      | 国立競技場  | 第13回日韓定期戦           |                                                        |
| 1989 01 20 | △日本 2-2       | △イラン     | テヘラン   |                     |                                                        |
| 1989 05 05 | ●日本 0-1       | ○韓国      | ソウル    |                     |                                                        |
| 1989 05 10 | △日本 2-2       | △中国      | 西が丘    |                     |                                                        |
| 1989 05 13 | ○日本 2-0       | ●中国      | 岡山     |                     |                                                        |
| 1989 05 22 | △日本 0-0       | △香港      | 香港     | W-CUP予選<br>(イタリア)   |                                                        |
| 1989 05 28 | △日本 0-0       | △インドネシア  | ジャカルタ  |                     |                                                        |
| 1989 06 04 | ○日本 2-1       | ●北朝鮮     | 国立競技場  |                     |                                                        |
| 1989 06 11 | ○日本 5-0       | ●インドネシア  | 西が丘    |                     |                                                        |
| 1989 06 18 | △日本 0-0       | △香港      | 神戸     |                     |                                                        |
| 1989 06 25 | ●日本 0-2       | ○北朝鮮     | ビョンヤン  |                     |                                                        |
| 1990 07 27 | ●日本 0-2       | ○韓国      | 北京     | 第1回ダイナスティカップ        |                                                        |
| 1990 07 29 | ●日本 0-1       | ○中国      |        |                     |                                                        |
| 1990 07 31 | ●日本 0-1       | ○北朝鮮     |        |                     |                                                        |
| 1990 09 26 | ○日本 3-0       | ●バングラ    | 北京     | 第11回アジア大会<br>(北京)   | ベスト8                                                   |
| 1990 09 28 | ●日本 0-2       | ○サウジアラビア |        |                     |                                                        |
| 1990 10 01 | ●日本 0-1       | ○イラン     |        |                     |                                                        |
| 1991 06 02 | ○日本 1-0       | ●タイ      | 山形     |                     |                                                        |
| 1991 06 09 | ○日本 2-1       | ●インドネシア  | カランガール | オリンピック予選<br>(バルセロナ) | 23歳以下代表<br>チーム<br>日本5位<br>カタール、韓国、<br>クウェートが本大<br>会へ出場 |
| 1991 06 16 | ●日本 1-3       | ○香港      |        |                     |                                                        |
| 1991 06 23 | ○日本 3-0       | ●台湾      |        |                     |                                                        |
| 1991 06 29 | ○日本 2-0       | ●台湾      |        |                     |                                                        |
| 1991 07 07 | ○日本 3-0       | ●香港      |        |                     |                                                        |
| 1991 07 13 | ○日本 3-1       | ●インドネシア  |        |                     |                                                        |
| 1991 07 27 | ●日本 0-1       | ○韓国      | 長崎     | 第15回日韓定期戦           |                                                        |
| 1992 01 19 | ●日本 1-2       | ○中国      |        | オリンピック予選<br>(バルセロナ) |                                                        |
| 1992 01 22 | △日本 1-1       | △クウェート   |        |                     |                                                        |
| 1992 01 25 | ○日本 6-1       | ●バーレーン   |        |                     |                                                        |
| 1992 01 27 | ●日本 0-1       | ○韓国      |        |                     |                                                        |
| 1992 01 30 | ●日本 0-1       | ○カタール    |        |                     |                                                        |
| 1992 08 22 | △日本 0-0       | △韓国      | 北京     | 第2回ダイナスティカップ        |                                                        |
| 1992 08 24 | ○日本 2-0       | ●中国      |        |                     |                                                        |
| 1992 08 26 | ○日本 4-1       | ●北朝鮮     |        |                     |                                                        |
| 1992 08 29 | ○日本 2-2 PK●韓国 | ●韓国      |        |                     |                                                        |
| 1992 10 30 | △日本 0-0       | △アラブ首長国  | 広島     | アジアカップ              | 優勝                                                     |
| 1992 11 01 | △日本 1-1       | △北朝鮮     |        |                     |                                                        |
| 1992 11 03 | ○日本 1-0       | ●イラン     |        |                     |                                                        |
| 1992 11 06 | ○日本 3-2       | ●中国      |        |                     |                                                        |
| 1992 11 08 | ○日本 1-0       | ●サウジアラビア |        |                     |                                                        |
| 1993 04 08 | ○日本 1-0       | ●タイ      | 神戸     | W-CUP予選<br>(アメリカ)   |                                                        |
| 1993 04 11 | ○日本 8-0       | ●バングラ    | 国立競技場  |                     |                                                        |
| 1993 04 15 | ○日本 5-0       | ●スリランカ   |        |                     |                                                        |
| 1993 04 18 | ○日本 2-0       | ●UAE     |        |                     |                                                        |
| 1993 04 28 | ○日本 1-0       | ●タイ      | ドバイ    |                     |                                                        |
| 1993 04 30 | ○日本 4-1       | ●バングラ    |        |                     |                                                        |
| 1993 05 05 | ○日本 6-0       | ●スリランカ   |        |                     |                                                        |
| 1993 05 07 | △日本 1-1       | △UAE     | アルアイン  |                     |                                                        |
| 1993 10 15 | △日本 0-0       | △サウジアラビア | ドーハ    |                     |                                                        |
| 1993 10 18 | ●日本 1-2       | ○イラン     |        |                     |                                                        |
| 1993 10 21 | ○日本 3-0       | ●北朝鮮     |        |                     | 4位<br>得失点差にて韓<br>国が代表権獲得                               |
| 1993 10 25 | ○日本 1-0       | ●韓国      |        |                     |                                                        |
| 1993 10 28 | △日本 2-2       | △イラク     |        |                     |                                                        |
| 1994 05 22 | △日本 1-1       | △豪州      | 広島     |                     |                                                        |
| 1994 09 27 | △日本 0-0       | △豪州      | 国立競技場  |                     |                                                        |
| 1994 10 03 | △日本 1-1       | △UAE     | 広島     | 第12回アジア大会<br>(広島)   | ベスト8                                                   |
| 1994 10 05 | △日本 1-1       | △カタール    |        |                     |                                                        |
| 1994 10 09 | ○日本 5-0       | ●ミャンマー   |        |                     |                                                        |
| 1994 10 11 | ●日本 2-3       | ○韓国      |        |                     |                                                        |
| 1995 02 15 | ●日本 1-2       | ○豪州      | シドニー   |                     |                                                        |
| 1995 02 21 | △日本 1-1       | △韓国      | 香港     | 第3回ダイナスティカップ        |                                                        |
| 1995 02 23 | ○日本 2-1       | ●中国      |        |                     |                                                        |
| 1995 02 26 | ○日本 2-2 PK●韓国 | ●韓国      |        |                     |                                                        |
| 1995 05 26 | ○日本 5-0       | ●タイ      |        | オリンピック予選<br>(アトランタ) | 23歳以下代表<br>チーム                                         |
| 1995 05 28 | ○日本 6-1       | ●台湾      |        |                     |                                                        |
| 1995 06 11 | ○日本 6-0       | ●台湾      |        |                     |                                                        |

## サッカー研究(2) アジア地域における日本サッカーの評価ー

|            |          |          |        |                      |  |          |
|------------|----------|----------|--------|----------------------|--|----------|
| 1995 06 14 | ○日本 1-0  | ●タイ      |        |                      |  |          |
| 1995 10 24 | ○日本 2-1  | ●サウジアラビア | 国立競技場  |                      |  |          |
| 1995 10 28 | ○日本 2-1  | ●サウジアラビア | 愛媛総合   |                      |  |          |
| 1996 02 10 | ○日本 4-1  | ●豪州      | ウーロゴン  |                      |  |          |
| 1996 02 14 | ●日本 0-3  | ○豪州      | メルボルン  |                      |  |          |
| 1996 03 16 | △日本 1-1  | △イラク     | マレーシア  | オリンピック予選<br>(アトランタ)  |  |          |
| 1996 03 18 | ○日本 4-1  | ●オマーン    |        |                      |  |          |
| 1996 03 20 | ○日本 1-0  | ●UAE     |        |                      |  |          |
| 1996 03 24 | ○日本 2-1  | ●サウジアラビア |        |                      |  |          |
| 1996 03 27 | ●日本 1-2  | ○韓国      |        |                      |  | 出場権獲得    |
| 1996 07 12 | ○日本 1-0  | ●ブラジル    |        | オリンピック本大会<br>(アトランタ) |  |          |
| 1996 07 23 | ●日本 0-2  | ○ナイジェリア  |        |                      |  |          |
| 1996 07 25 | ●日本 3-2  | ●ハンガリー   |        |                      |  |          |
| 1996 09 11 | ○日本 1-0  | ●ウズベキスタン | 国立競技場  |                      |  |          |
| 1996 12 09 | ○日本 4-0  | ●ウズベキスタン | アルアイン  | アジアカップ               |  |          |
| 1996 12 12 | ○日本 1-0  | ●中国      |        |                      |  |          |
| 1996 12 15 | ●日本 0-2  | ○クウェート   |        |                      |  |          |
| 1997 02 09 | △日本 1-1  | △タイ      | バンコク   |                      |  |          |
| 1997 03 15 | ●日本 1-3  | ○タイ      |        |                      |  |          |
| 1997 03 23 | ○日本 1-0  | ●オマーン    | マスカット  | W-CUP予選<br>(フランス)    |  |          |
| 1997 03 25 | ○日本 10-0 | ●マカオ     |        |                      |  |          |
| 1997 03 27 | ○日本 6-0  | ●ネパール    |        |                      |  |          |
| 1997 05 21 | △日本 1-1  | △韓国      | 国立競技場  |                      |  |          |
| 1997 06 22 | ○日本 10-0 | ●マカオ     | 国立競技場  | W-CUP予選<br>(フランス)    |  |          |
| 1997 06 25 | ○日本 3-0  | ●ネパール    |        |                      |  |          |
| 1997 06 28 | △日本 1-1  | △オマーン    |        |                      |  |          |
| 1997 09 07 | ○日本 6-3  | ●ウズベキスタン |        |                      |  |          |
| 1997 09 19 | △日本 0-0  | △UAE     | アブダビ   |                      |  |          |
| 1997 09 28 | ●日本 1-2  | ○韓国      |        |                      |  |          |
| 1997 10 04 | △日本 1-1  | △カザフスタン  | アルマトイ  |                      |  |          |
| 1997 10 11 | △日本 1-1  | △ウズベキスタン | タシケント  |                      |  |          |
| 1997 10 26 | △日本 1-1  | △UAE     | 国立競技場  |                      |  |          |
| 1997 11 01 | ○日本 2-0  | ●韓国      | ソウル    |                      |  |          |
| 1997 11 08 | ○日本 5-1  | ●カザフスタン  | 国立競技場  |                      |  | 3位で本大会出場 |
| 1997 11 16 | ○日本 3-2  | 延●イラン    | ジ・ホルバル |                      |  | 権獲得      |
| 1998 03 01 | ○日本 2-1  | ●韓国      | 横浜     |                      |  |          |
| 1998 03 07 | ●日本 0-2  | ○中国      | 国立競技場  |                      |  |          |
| 1998 04 01 | ●日本 1-2  | ○韓国      | ソウル    |                      |  |          |
| 1998 06 14 | ●日本 0-1  | ○アルゼンチン  | トゥールーズ | W-CUP本大会<br>(フランス)   |  | 予選3戦3敗   |
| 1998 06 20 | ●日本 0-1  | ○クロアチア   | ナント    |                      |  |          |
| 1998 06 26 | ●日本 1-2  | ○ジャマイカ   | リヨン    |                      |  |          |

表2. 日本対アジア諸国の年代別対戦歴 (A代表・オリンピック代表戦に限る)

| 対戦国名    |             | 1917<br>~1942 | 1951<br>~1959 | 1960<br>~1969 | 1970<br>~1979 | 1980<br>~1989 | 1990<br>~1998 |                   |
|---------|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-------------------|
| 中国      | ○<br>●<br>△ | 3<br>6<br>1   |               |               | 1             | 3<br>4<br>2   | 4<br>3        | 10<br>14<br>3     |
| フィリピン   | ○<br>●<br>△ | 4<br>4        | 1             | 1             | 6             | 3             |               | 14<br>5           |
| インドネシア  | ○<br>●<br>△ | 1             | 1             | 1             | 5<br>2<br>1   | 5<br>1<br>1   | 2             | 12<br>6<br>2<br>3 |
| 満州      | ○<br>●<br>△ | 3             |               |               |               |               |               | 3                 |
| 蒙古      | ○<br>●<br>△ | 1             |               |               |               |               |               | 1                 |
| イラン     | ○<br>●<br>△ |               | 1<br>1        | 1<br>1        |               | 1<br>1<br>1   | 2<br>2        | 4<br>5<br>2       |
| アフガニスタン | ○<br>●<br>△ |               | 1             |               |               |               |               | 1                 |
| 韓国      | ○<br>●<br>△ |               | 2<br>4<br>2   | 4<br>3        | 2<br>14<br>5  | 2<br>8<br>1   | 6<br>6<br>3   | 12<br>36<br>14    |
| インド     | ○<br>●<br>△ |               | 1             | 2<br>1        | 2<br>1        | 1             |               | 5<br>3            |
| ビルマ     | ○<br>●<br>△ |               | 1<br>1        | 1<br>1        | 4<br>1        |               |               | 5<br>2<br>2       |
| オーストラリア | ○<br>●<br>△ |               | 1             | 1<br>2<br>2   |               |               | 1<br>2<br>2   | 2<br>5<br>4       |
| 香港      | ○<br>●<br>△ |               | 2             | 1             | 1<br>4<br>1   | 4<br>2        | 1<br>1        | 7<br>7<br>3       |
| マレーシア   | ○<br>●<br>△ |               | 1<br>1        | 3<br>1<br>2   | 2<br>5<br>4   | 3<br>2<br>2   |               | 9<br>9<br>8       |
| シンガポール  | ○<br>●<br>△ |               | 2<br>1        | 4<br>1        | 4<br>1        | 6<br>1        |               | 16<br>3<br>1      |
| スリランカ   | ○<br>●<br>△ |               |               |               |               |               | 2             | 2                 |
| ベトナム    | ○<br>●<br>△ |               |               | 2<br>1        | 1             |               |               | 3<br>1            |
| タイ      | ○<br>●<br>△ |               |               | 3             | 4<br>2        | 1<br>1<br>1   | 4<br>1<br>1   | 12<br>2<br>4      |
| パキスタン   | ○<br>●<br>△ |               |               | 1             |               |               |               | 1                 |
| 台湾      | ○<br>●<br>△ |               |               | 1<br>1        | 2             | 1<br>1        | 4             | 8<br>1<br>1       |
| レバノン    | ○<br>●<br>△ |               |               | 1             |               |               |               | 1                 |
| クメール    | ○<br>●<br>△ |               |               |               | 2             |               |               | 2                 |

## サッカー研究(2) -アジア地域における日本サッカーの評価-

|          |             |               |              |               |                |                |                |                  |
|----------|-------------|---------------|--------------|---------------|----------------|----------------|----------------|------------------|
| スリランカ    | ○<br>●<br>△ |               |              |               | 1              |                |                | 1                |
| イスラエル    | ○<br>●<br>△ |               |              |               | 7              |                |                | 7                |
| 北朝鮮      | ○<br>●<br>△ |               |              |               | 1<br>1<br>1    | 3<br>1<br>1    | 2<br>1<br>1    | 5<br>3<br>3      |
| バングラディシュ | ○<br>●<br>△ |               |              |               | 1              | 1              | 3              | 5                |
| イラク      | ○<br>●<br>△ |               |              |               | 1<br>1         | 3              | 2              | 3<br>3<br>1      |
| シリア      | ○<br>●<br>△ |               |              |               | 1              |                |                | 1                |
| クウェート    | ○<br>●<br>△ |               |              |               | 1              | 1              | 1              | 2<br>1<br>1      |
| バーレーン    | ○<br>●<br>△ |               |              |               | 1              |                | 1              | 2                |
| ブルネイ     | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                | 1              |                | 1                |
| マカオ      | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                | 1              | 1              | 2                |
| アラブ 首長国  | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                | 1<br>1<br>1    | 3<br>5         | 4<br>1<br>6      |
| イエメン     | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                | 1              |                | 1                |
| カタール     | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                | 2              | 1<br>1         | 3<br>1           |
| ネパール     | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                | 3              | 2              | 5                |
| オマーン     | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                |                | 2              | 2                |
| サウジアラビア  | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                |                | 1<br>4<br>1    | 1<br>4<br>1      |
| ウズベキスタン  | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                |                | 3              | 3                |
| カザフスタン   | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                |                | 1<br>1         | 1<br>1           |
| ミャンマー    | ○<br>●<br>△ |               |              |               |                |                | 1              | 1                |
| 試合数      |             | 2 3           | 2 4          | 4 3           | 9 2            | 8 1            | 8 8            | 3 5 1            |
| 試合勝敗内訳   | ○<br>●<br>△ | 10<br>12<br>1 | 7<br>13<br>4 | 20<br>15<br>8 | 40<br>37<br>15 | 41<br>25<br>15 | 47<br>19<br>22 | 165<br>121<br>65 |



力を着けた。

しかし、その後、日本サッカーは第2次世界大戦により「世界の孤児」の時代を過ごすことになる。終戦後の1948（昭和23）年、日本蹴球協会機関誌『SOCCER』復刊1号に、当時の理事長である竹腰重丸が「日本蹴球の技術的に進むべき方向」と題する論文を掲載している。

「1936年ベルリン大会、1938年イズリントン来日のころ、ようやく国際的性格をもつに至った日本のサッカーであったが、その後おたがいが体験したいろいろの悪条件で、現在の実力では代表チームを作ったとしても、最盛時の一流大学の単独チーム程度といえるくらいに落ち込んでしまっている。その再建の方策としては、単に外国人のプレーをまねるでもなく、独善的非科学的に「日本式」を振り回してもいけず、北欧系・南欧系など外国の長所を学び、忠実勤勉・執拗・果敢という日本人の特性を生かし、国内的に通じる技術の大きさ、幅、スケールから、これをさらに拡大していかなければならない。攻撃力を増すためには、ウイングを増強の要があるし、防御には全員が総掛かりで、相手のパスが出てくる箇所をなくす攪乱工作ができるようにするのと同時に、ゴール近くでは決定的なタックルができるように努めるなど、いつも現在目の前にある敵よりも、もっと優れた相手を頭に描いて、科学的研究とともに、巧妙精緻な技能戦法の修得に努めなければならない。これが関係者の間で意見一致をみた指導方針である。」

## 第5章 戦後の日本サッカーの復活・改革

1950（昭和25）年の第27回FIFA総会でドイツと日本のFIFA復帰が認められた。

そして、戦後の日本の初の国際大会は1951（昭和26）年のニューデリー開催の第1回アジア大会である。成績は6チーム中第3位をおさめ、さらに1954（昭和29）年には初めてワールドカップ（スイス）大会アジア予選に出場し、韓国を相手に2戦して1分け1敗の成績で本大会への出場を逃している。

しかし、オリンピックに関しては1956（昭和31）年メルボルン大会への予選において、再び韓国を相手に1勝1敗で決着が着かず、抽選ではあったが20年振りに代表権を獲得し出場したが、本大会では地元オーストラリアにあえなく敗退した。

その後、1958（昭和33）年に東京で開催された第3回アジア大会においてフィリピン、香港に敗れ予選敗退という屈辱を味わった。さらに翌年のオリンピック（ローマ）大会予選でも最終的には韓国に対して1勝1敗と善戦をしながらも勝ち抜くことができず、開催国として無条件出場の1964（昭和39）年オリンピック（東京）大会まで出場を待たねばならなかった。

このように1950年代はアジア大会、オリンピック大会予選など世界に関わる戦績ではアジア諸国との対戦成績で2勝8敗2分けと非常に分が悪く、かろうじてマレーシアを中心とするムルデカ大会でマラヤ、シンガポールに勝利することでこの10年間のアジア諸国との対戦成績を40戦中20勝15敗8分けにしたにすぎない。

世界的へ飛躍という観点ではこの年代はやはり低迷期ということができる。ローマ大会予選で韓国に敗れた日本サッカー界はどん底状態に陥り、4年後のオリンピック（東京）大会を目標に1960（昭和35）年、代表チームは欧州7カ国へ約40日間にわたって長期遠征した。初の欧州遠征で日本サッカー界は貪欲に何でもかんでも吸収しようという意気込みだった。そこでドイツ人のデットマール・クラマー（Dettmar Cramer）コーチの存在を知ることになるのである。（注2）

当時、日本スポーツ界において外国人に教えを請うという考えはほとんどなかった。そんな時期に、数年間にわたって外国人プロコーチを招聘することは破天荒なことだった。その計画を遂行したのは当時の日本サッカー協会第4代会長の野津謙であった。野津の意としたコーチの条件とは、日本人の

性格を理解し、選手と心の交流ができる人、技術的、体力的にもコーチとして優秀な人であった。野津はドイツ人の考えが比較的日本人に近いと考え、以前から西ドイツ協会にコーチの長期派遣を要請していた。野津はクラマーに対して、精神主義に支えられた合理的科学性という点で大いに共鳴し、日本サッカーの命運を託するに足る人物であるとの思いを強くした。技術や戦術だけではなく、それらをサッカー理論に統一する哲学があると評価した。

当時の日本サッカー界にとって西ドイツで見たサッカーは、一面芝で覆われたグラウンド、施設、設備のすばらしさにまず驚き、さらにサッカーは技術だけではなく環境、施設の重要さを痛切に感じ取った。そして1960年10月クラマーは初来日した。約50日間の滞在で日本サッカーの実状を観察し、抱いていたイメージとはほど遠い技術以前の環境の貧困さに驚いた。コーチ陣は全てアマチュアで貧弱なこと、代表選手がいつでも練習できる芝生のグラウンドがないこと、ボールが国際規格にあってないこと、大会がトーナメント方式で連戦で疲れが残って技術が向上しないこと、代表選手の選考を理事会が行うことなどを指摘した。日本サッカーの将来性を憂え次の重要な3点について提言した。

- ①強力な日本代表チームを作ること。成績においても、プレー内容においても模範になるものでなければならない。国際試合を増やし、専用トレーニングセンターを設置し、また欧州なみにリーグ戦形式にすること。
- ②広く、基礎からトップに至るまでつながりのある組織を作ること。サッカーの指導は子供から大人、日本代表まで一貫したものでなくてはならない。そのためには施設やグラウンドを整備すること。
- ③有能なトレーナーを要請すること。そのためにはスポーツ学校の設立、コーチ養成システムの整備。

これらの提言が、その後の日本サッカー界に大きな変革をもたらしたことはいうまでもない。すなわち、代表選手の選考には実際に選手に接しているコーチの意向を重要視し、リーグ戦方式に関しては、後に日本サッカーリーグ (Japan Football League : JFL) を発足させ、これが結果的には、やがて現在のJリーグへ発展する基本的な考えとなった。また、コーチ制度の確立は1969 (昭和44) 年にアジアのコーチを集めて日本 (検見川) におけるFIFAコーチングスクール開催の伏線となった。このコーチングスクールに12人の日本人参加者がいたが、これらの参加者が後に日本サッカー界をリードすることになるのである。

その後、1964 (昭和39) 年オリンピック東京大会までにクラマーは3回来日し、代表合宿中にも選手と起居を共にし、1964年10月オリンピック東京大会において強豪アルゼンチンに逆転勝ちをおさめる偉業を成し遂げたのである。

クラマーの持つ思想とは、基本の重要さと正確さである。各種戦術もこの基本動作の正確さが無ければ生まれないというものだった。日本選手の特徴として、体格には劣るが、スタートが速く、クレバーであることを生かすためには、低く速いパスと正確なボールタッチが重要で、日本人の個性を考えて日本的な形を作るべきだとする発想があった。クラマー語録に「ボールコントロールは、次の部屋に入るカギである。そのカギさえあれば、サッカーでは何でもできる」「タイムアップの笛は、次の試合へのキックオフである」「サッカーの上達に、近道はない。不断の努力だけである」などがあり、いずれの言葉も真理を突いた言葉である。

さらに1968 (昭和43) 年オリンピック (メキシコ) 大会までの4年間に、クラマーはたびたび来日し、教え子である監督、コーチを支え、本大会の3位決定戦において日本は開催国メキシコを破り銅メダルを獲得したのである。

1960年代は、クラマーコーチの指導により、日本サッカーは一番輝いた時代ということができるし、この年代の所産が現在の日本サッカーのベースになったと言っても過言ではない。

すなわち、オリンピック（東京）大会で強豪アルゼンチンを破りベスト8を獲得したことにより、それまで馴染みの薄かったサッカーの面白さが理解され始めたことや、翌1965（昭和40）年よりスタートした日本サッカーリーグにより、それまで以上にマスコミがサッカーを取り上げたことで大いに盛り上がった。このような状況が各地に少年層のサッカー人口の増加を生み、それが自動的にレベルアップにつながったのである。さらに指導者養成システムも確実に進歩し、従来の経験主義に基づくコーチ、根性のサッカー、蹴って走るだけのサッカーに代わって、個人技の重要さを認識し、指導者の意識も些少ではあるが変化の兆しが見え始めたのもこの時期である。これはサッカー人気の拡大やマスメディアを通じての海外事情の普及などの影響も考えられる。

また、日本サッカーの勢力図が従来の学生中心であったものが、日本サッカーリーグの発足により実業団中心へと移行したのもこの時期である。実業団チームが初めて天皇杯全日本選手権大会の決勝に進出したのは1954（昭和29）年であるが、その後、学生を凌ぐには意外と長い時間が必要だった。すなわち全日本を初めて制したのは古河電工の1960（昭和35）年になる。かつては大学現役とOBの混在したクラブで出場していたものが、OBが実業団で出場するようになると完全に大学チームを逆転し、初代日本リーグチャンピオンの東洋工業を1966（昭和41）年に早稲田大学が破ったのを最後に大学勢の優勝は一度もない。

このように実業団優位は完全に定着し、1960年代後半には従来より一層高いレベルに達した。このことはサッカーが高い巧緻性を必要とし、戦術的駆け引きの要素も強く、当時は選手生命のピークは20歳代後半にあると言われた。

さらに、実業団で構成された日本リーグに参加した大企業は新聞、テレビという媒体の宣伝効果に目を向け、次第にサッカー選手に対して優遇措置をとるようになる。すなわち選手に対して勤務時間を短縮し練習時間の確保という措置がとられるようになった。これは名目的には社員であるが実質的にはサッカーをすることが仕事という社員が出現し、実質的にはプロ行為ということが生じた。

戦後、東ヨーロッパを中心にして誕生した共產圏諸国のステートアマと呼ばれる選手の出現は、当初、共産党政府は西欧スポーツに否定的で強化にも力を入れなかったが、やがて社会主義制度の優位性を顕示する道具としてスポーツ選手の育成に力を入れるようになるのである。社会主義国はプロ制度を認めていないところから、優秀なこれらの選手は国によって保護されていた。名目上は労働者であったり、軍人であったりするが、実際には全ての時間を競技生活に当てられた。一般労働者より遙かに高い水準の生活が補償され、引退後も年金などの形で国家によって保護される「ステートアマ」と呼ばれる制度があった。日本の場合は大企業がアマチュア選手の生活の補償をしたところから「企業アマ」と呼ばれた。

1970年代にはこれら企業アマには限界が見られることになる。特に年功序列制度が基準となる賃金体系において、試合に出場して活躍する高校出の選手より大学出の控えの選手の方が賃金が高額になるという矛盾が生じた。このことは選手のモチベーションからして真剣な選手生活が送れなくなり、日本リーグの試合内容が「安全第一」の迫力のない低レベルの試合に終始するようになってしまい、日本代表もアジア諸国との対戦においても表2.に示すとおり、1970年代は、92試合を消化しながら40勝37敗15分けの成績で60年代に比べると日本サッカーの暗黒の時代と言える。

しかし、日本サッカーリーグが刺激となり、その後バレーボール、アイスホッケーなどに次々と日本リーグが組織され、1930年に第1回大会を開催したワールドカップに追従してスキー、陸上、ラグビーなどがワールドカップを発足させたスポーツ界の流れは、内外共にサッカーの先進性を物語るものと言える。

さらに、暗黒の時代と言われながらも70年代後半には日本人プロ選手が西ドイツで活躍するなど、次第に日本サッカー界でもプロ化の胎動が見られ始めた。

## 第6章 アジアの中の日本

日本の次の目標はプロ、アマを問わず世界一を決めるワールドカップ出場だった。

FIFAが各地域連盟に本大会出場枠の採用を実施するようになったのは第8回イングランド大会（1966（昭和41）年）からである。第1回ウルグアイ大会（1930（昭和5）年）は世界全体でも13か国しか参加希望がなかったが、参加国の増大により全体で予選枠を決定し本大会出場国（15または16か国）を決定していた。地域枠採用以前にもアジアからは蘭領東インド（現インドネシア）が第3回（1938（昭和13）年）、韓国が第5回（1954（昭和29）年）に出場しているが、出場枠が採用されると地域予選突破が各国の強化最大の目標になった。

しかし、出場枠採用が実施され始めた当時、世界におけるアジアサッカーに対する評価は低く、出場枠もアフリカ、オセアニア、アジアの3地域連盟の代表国によりプレーオフの結果1か国の枠しか与えられていなかった。それが第11回（1978年）まではオセアニアとのプレーオフとなり2枠が純然と与えられたのは、FIFAが第12回（1982（昭和57）年）に本大会の出場国を24か国に増大した次の第13回（1986（昭和61）年）大会以後である。さらに、第16回（1998（平成10）年）フランス大会には全体の出場国を32か国とし3+1/2（オセアニア）の出場枠が与えられた。

過去、アジア地域からワールドカップ本大会に出場したのは、アジアサッカー連盟所属国が45か国（2000年現在）あるが、第16回フランス大会（1998（平成10）年）までに日本を含め12か国である。日本の場合、このワールドカップに関しては、1954（昭和29）年に初めての予選を韓国と対戦し1分け1敗で敗退している。

当時、日本はオリンピック大会への出場を最大の目標としており、そのオリンピック大会への出場すらままならず、さらにアジア大会や諸外国のクラブチームとの対戦からも外国チームの力量にはほど遠く、ワールドカップ大会は高嶺の花的存在だった。

韓国は1950年代から60年代にかけては各種のアジアでの国際大会に優勝し、アジア最強の地位を維持してきた。第2次世界大戦後、日本の植民地支配から独立した韓国は1948（昭和23）年オリンピック（ロンドン）大会にも出場した。その後、北朝鮮との分断、内戦（朝鮮戦争）と著しく国土が荒廃したにもかかわらず、第5回ワールドカップ（スイス）大会にも出場している。

当時のアジア地域における表3. に示す戦績から大陸連盟のチャンピオンを決定するアジア選手権大会（以下Asian-Cupと記す）で、1956、1960年に韓国は2連覇を果たし、1968年以降は中東勢の活躍でイラン、クウェート、サウジアラビアなどと常に上位を争っている。さらに、表4. に示したアジア大会においても第2回（1954（昭和29）年）2位、第3回（1958（昭和33）年）2位、第4回（1962年）2位と常に上位に位置し、中東諸国の進出によりイラン、イラク、サウジアラビア、クウェートなどと常にベスト4を維持している。

日本は1950年代以降1980年代後半までアジア地域における戦績では特に目立った活躍は見られず、特にAsian-Cupでは1963年まで参加せず、初めて参加した第4回大会にもB代表を派遣するなどアジア軽視とも見られた。アジア大会においても未だ優勝をもとよりファイナリストにもなっていない。最高位でも第1回（1951（昭和26）年）、第5回（1966（昭和41）年）の3位にとどまっている。

日本サッカーは古くは極東選手権大会における初の国際試合により育てられ、さらに1957（昭和32）年マラヤが英国より独立した記念行事として開催された国際サッカー大会であるムルデカ大会により多大な影響を受けてきたという背景がある。しかし、日本サッカーの強化の方向性はむしろヨーロッパ、南米の著名なクラブチームの招聘に見られるごとく、必ずしもアジア中心に目は向けられてはいなかったと言うことができる。

しかし、1982（昭和57）年アジア大会・グループリーグで韓国、イランを破り、準々決勝で優勝し

表3. アジア選手権大会 (Asian-Cup)成績

| 回数 | 年    | 開催地      | 優勝      | 2 位      | 日本代表結果 | 備考    |
|----|------|----------|---------|----------|--------|-------|
| 1  | 1956 | 香港       | 韓国      | イスラエル    | 不参加    | 日本代表B |
| 2  | 1960 | 韓国・ソウル   | 韓国      | イスラエル    | 不参加    |       |
| 3  | 1964 | イスラエル    | イスラエル   | インド      | 不参加    |       |
| 4  | 1968 | イラン・テヘラン | イラン     | ビルマ      | 予選敗退   |       |
| 5  | 1972 | タイ・バンコク  | イラン     | 韓国       | 不参加    |       |
| 6  | 1976 | イラン・テヘラン | イラン     | クウェート    | 不参加    |       |
| 7  | 1980 | クウェート    | クウェート   | 韓国       | 不参加    |       |
| 8  | 1984 | シンガポール   | サウジアラビア | 中国       | 不参加    |       |
| 9  | 1988 | カタール・ドーハ | サウジアラビア | 韓国       | 予選敗退   | 学生選抜  |
| 10 | 1992 | 日本・広島    | 日本      | サウジアラビア  | 優勝     |       |
| 11 | 1996 | アラブ首長国連邦 | サウジアラビア | アラブ首長国連邦 | ベスト8   |       |

表4. アジア大会決勝記録

| 大会回数 | 開催年   | 開催地    | 優勝      | 2 位     | 3 位 | 参考資料   |
|------|-------|--------|---------|---------|-----|--------|
| 第 1回 | 1951年 | ニューデリー | インド     | イラン     | 日本  |        |
| 第 2回 | 1954年 | マニラ    | 台湾      | 韓国      |     | 日本C組3位 |
| 第 3回 | 1958年 | 東京     | 台湾      | 韓国      |     | 日本C組3位 |
| 第 4回 | 1962年 | ジャカルタ  | インド     | 韓国      |     | 日本B組3位 |
| 第 5回 | 1966年 | バンコク   | ビルマ     | イラン     | 日本  |        |
| 第 6回 | 1970年 | バンコク   | 韓国・ビルマ  |         |     | 日本4位   |
| 第 7回 | 1974年 | テヘラン   | イラン     | イスラエル   |     | 日本C組3位 |
| 第 8回 | 1978年 | バンコク   | 韓国・北朝鮮  |         |     | 日本C組3位 |
| 第 9回 | 1982年 | ニューデリー | イラク     | クウェート   |     | 日本ベスト8 |
| 第10回 | 1986年 | ソウル    | 韓国      | サウジアラビア |     | 日本D組3位 |
| 第11回 | 1990年 | 北京     | イラン     | 北朝鮮     |     | 日本ベスト8 |
| 第12回 | 1994年 | 広島     | ウズベキスタン | 中国      |     | 日本ベスト8 |
| 第13回 | 1998年 | バンコク   | イラン     | クウェート   | 中国  | 日本B組3位 |

たイラクに延長の末惜敗した。これが契機になり1984（昭和59）年オリンピック（ロスアンジェルス）大会に期待がかかったが、最終予選においてよもやの4連敗を喫した。

それでも第13回ワールドカップ（メキシコ）大会（1986（昭和61）年）予選では、最終予選まで勝ち進み、悲願の初出場に期待が膨らんだ。しかし、相手は宿敵・韓国であり1-2、0-1と2敗し実力差を思い知らされた。このように最後の最後でアジアの壁を破ることができなかったことが、世界への大きな壁であることをあらためて痛感させられた。その後、1987（昭和62）年オリンピック（ソウル）大会予選でも中国相手にアウエイで1-0で勝利し、ホームでの最終戦で引き分けさえすれば20年振りにオリンピック出場が決定する状況であったにもかかわらず結果的には0-2で敗れた。

このように1980年代後半になりアジア地域で勝つことの困難さを実感し、以後その強化をはかるべく、従来の日本サッカーリーグからプロリーグ創設という日本サッカー変革の方向性が模索され始めた。かつてはプロ選手の参加を厳しく禁止していたオリンピック大会も「プロ解禁」どころか、IOCが各種競技で世界のトッププロをオリンピックに参加させようと躍起になっていた時代であった。サッカーでは1984（昭和59）年のロスアンジェルス大会からプロ選手もオリンピックに参加しており、現在では事実上23歳以下の世界選手権大会と考えられている。

日本初のプロリーグ・Jリーグの開幕を1年後に控えて環境整備も進み、2002年ワールドカップ招致活動も本格化始めた1992（平成4）年、日本サッカー協会は強化策の一環として代表監督に初の外国人を起用した。オランダ人のハンス・オフト監督の誕生であり、もともと日本の実業団における実績が買われ日本サッカーを良く理解していることが起用の主要因だった。日本サッカーはオフトの合理的指導で戦術の基本を徹底的にたたき込まれた。同年夏の第2回ダイナスティカップ（北京）では初優勝し、代表の海外の公式大会で初優勝を果たした。

1992（平成4）年秋には広島で第10回Asian-Cupが開催され、地元開催ということもありアラブ首長国連邦、北朝鮮に引き分け、イラン、中国、サウジアラビアを一気に下し、アジアのチャンピオンシップを獲得した。

1993（平成5）年のワールドカップ（アメリカ）大会予選では1次予選は問題なく突破し、同年10月最終予選の最終戦・対イラク戦において試合終了間際に同点とされ、結果的には得失点差で韓国が日本を上回りサウジアラビアに次いで2位で代表権を獲得した。しかし、日本の戦術的レベルの高さは各国から高い評価を受け、これがその後世界の強豪国との対戦が実現する大きな要因となった。

また、この1993（平成5）年は日本サッカーにとっては記念すべき年で、5月には念願のプロサッカーリーグ・Jリーグがスタートしたのである。それまで日本ではチームスポーツとしてプロリーグというのは、プロ野球しか存在しなかった。それ故に開幕以来2シーズンは各試合とも大盛況で前途洋々たる感があった。

Jリーグは基本理念として、①「日本サッカーの水準向上および普及促進」②「豊かなスポーツ文化の振興および国民の心身の健全な発達への寄与」③「国際社会における交流および親善への貢献」を謳い、日本サッカーがより広く愛されるスポーツとして普及することにより、国民の心身の健全なる発達を図るとともに、豊かなスポーツ文化を醸成し、国際社会における交流・親善に寄与しようとするものである。さらに、日本サッカーを活性化し、オリンピック、ワールドカップに常時出場できるレベルまで実力を高め、トップレベルの選手・指導者に対しやり甲斐のある場を提供し、その社会的地位を高め、特徴として地元根拠地ホームタウン制を基本として各地域密着型のスタジアム施設をはじめチーム周辺を整備することを設立趣旨としてスタートした。

1993年（平成5）年にスタートしたJリーグは、当初10チームで構成され、現在の2000年シーズンはJディビジョン1（J1）として16チーム、Jディビジョン2（J2）11チームとして運営されている。これはサッカー先進国であるヨーロッパのトップリーグであるイギリス22、スペイン20、ドイツ、イ

タリア18チームを模したものであるが、ヨーロッパのプロサッカーはもともと自然発生的なもので、強化の一環として優秀な選手をプロとして契約したことがその起源になっている。初期のころは一つのクラブの中でもプロ選手とアマチュア選手が同時にプレーしたり、リーグの中にはプロ選手と契約しているクラブもアマチュア選手だけのクラブも加盟することができた。その後、サッカーに投資することで金銭的、政治的な利益を得るケースも出現し、プロサッカーは次第に近代的な娯楽産業化の道を歩んだ。このように世界のサッカークラブの経営形態が変化しつつある時に、経済大国である日本においてプロリーグとして発足したのが「Jリーグ」なのである。アメリカのスポーツの場合、プロリーグとは企業家が出資して営利のために造られたものであるが、日本の場合はこの中間的リーグとすることができる。プロクラブとしての経営状態もリーグ加盟の重要な条件であり、アマチュアチームが強化してもJリーグには参入できない仕組みになっている。このようなJリーグはアメリカ型プロスポーツ産業とヨーロッパ型のスポーツ組織の長所を取り入れた先進的な形態のプロリーグである。

チーム数の増加は、地域に密着した市民チームをつくり、サッカーを全国に広めようとするJリーグの目的には適うものであるが、チームを増やすことによる弊害も多い。プロリーグといっても選手層は薄く、クラブの選手育成システムが稼働しないうちにチーム数を増やせばレベルは一層低下することになる。もともとアマチュアチームだった実業団中心の日本リーグが突然プロ化したのであるから、急速なレベルアップは望むべくもなく、そのような弊害が当然の帰結としてJリーグ開始3シーズン目には見られ始めた。世界レベルの選手の育成と代表チームの強化を大命題としたプロリーグの創設であったが、リーグ運営が代表チームの強化に足を引っ張ることになるのである。レベルの低下を外国人選手の補強によることで参稼報酬の高騰化を招き、リーグの経営を優先させなければならないほど各クラブの経営状態は逼迫していた。

1992年のAsian-Cupでアジアの覇者になった日本であったが、1994（平成6）のアジア大会ではベスト8止まりで、まだJリーグ効果はみることができなかった。しかし、1996（平成8）年に至り、漸く若手選手にJリーグ効果とも思える状況がみられ始めた。すなわち、1996年にはオリンピック（アトランタ）大会予選で日本は代表権を獲得したのである。この大会の代表選手はすべてプロのJリーグの選手で占められ、さらに23歳以上の選手を3名まで出場可能というオーバーエイジ（over age）枠を認めるという大会になった。本大会では強豪ブラジルを1-0で破り、ハンガリーにも3-2と勝ったが、近年台頭したナイジェリアに0-2で破れ予選を通過することができなかった。

しかし、日本サッカーはJリーグのスタートと、諸外国の強豪相手に簡単に勝つことはできないまでも多くの経験を積むことで、着実に進歩の形跡が見られ始めた。

1994（平成6）年にはソ連解体により中央アジアから5ヶ国がアジアサッカー連盟に加盟し、その年広島で開催されたアジア大会でウズベキスタンが優勝した。選手の大部分がロシア系白人でソ連時代からの伝統でヨーロッパ的サッカーをするだけにアジアでは脅威となった。

1998（平成10）年ワールドカップ（フランス）大会は出場国数が32ヶ国になり、それによってアジア地域へ割り当てられた出場枠が3ヶ国となり、前回予選が3位だった日本は初出場を目指した。一次予選は問題なく勝ちあがることができたが、最終予選では特に中央アジアのカザフスタン、ウズベキスタンになかなか勝つことができず、最終戦であった対イラン戦で延長のすえ3-2で勝利し悲願のワールドカップ大会への権利を獲得した。

## 第6章 まとめ

日本サッカーを世界的レベルで検討するとき、ワールドカップあるいはオーバーエイジ枠が採用される最近のオリンピック大会レベルを取り上げる必要がある。

ワールドカップ大会の過去の戦績を検索するとき世界的にアジア地域の出場国による総試合数は53試合あるが4勝11分け38敗で、5回の最多出場を果たしている韓国でさえ、まだ予選リーグを通じて勝ち星がない。しかし、近年になり第16回1998年ワールドカップ(フランス)大会ではサウジアラビア、イランが勝ち点を挙げており、アジア地域代表の活躍も今後可能性を期待することができる予兆が感じられる。

本大会における予選リーグに勝つことはもとより、大会出場のための大陸地域予選はさらに熾烈を極め、まさに各国の真剣勝負の場として考えられている。ヨーロッパや南米のように約2年の歳月をかけてホーム&アウェイ方式の予選を実施している連盟はまさにサッカー先進諸国とすることができる。さらにオリンピック大会においても最近では23歳以上のプロ選手の起用が認められたことにより、従来のアマチュア大会とは少し異なった様相を示している。

世界の舞台に出るには何としても地域に与えられる出場権枠を確保しなければならない。そのためにはアジアにおいて常に上位ランキングを確保する必要があるが、サッカーは絶対、確実という可能性を維持することが不可能なスポーツであるだけに非常に難しいといえる。

そこで本稿では我が国にサッカーが紹介されて以来、いかなる発展経過を経て現在の日本サッカーを構築し、アジア地域内における戦力的経緯を検討した。

日本サッカーは歴史的には古いが国際的にはそれほど多くの経験を積んでいない。アジア地域の特徴としてあまりにも広大すぎる。こうした地域差はヨーロッパ的なホーム&アウェイ方式の試合形式が不可能だったり、各国におけるシーズンの異なりが対外試合を阻害しているのである。日本の場合、活躍の場は当初、極東が中心で特定の国としか国際試合ができていなかった。

諸外国といえども基本的にはクラブ間のリーグ戦が主体で選手のレベルアップが図られている。選手個々の質の向上はこうした厳しいリーグ戦で培われ、こうした経験が技術のみならずメンタリテイ面でもサッカー選手として非常に高いレベルを維持することが重要なのである。

日本の場合、1990年代になりようやく視点を世界に向け、プロサッカーJリーグを発足させ、着実に力をつけつつある。戦績でもここ数年は極東の日本、韓国と中東勢の戦いが続いている。

1993(平成5)年のワールドカップ予選ではサウジアラビア、韓国、日本、イラクの順であり、1994(平成6)年のオリンピック予選では韓国、日本、サウジアラビア、イラクの順だった。さらに1997(平成9)年ワールドカップ予選ではサウジアラビア、韓国、日本、イランの順だった。この戦績から日本サッカーの評価としてアジア地域では常に上位3~4位辺りに位置づけることができるのではないだろうか。

しかし、世界的な視野に立つ時、環境面で、日本の一般国民にサッカー的思考形態の欠如が考えられる。サッカーというスポーツに対する関心が、いろいろな経験として世代を超えて伝わる必要がある。日本の場合、まだ取り上げることができるほどの経験はないが、限りなくワールドカップ本大会に近づいたメキシコ、アメリカ大会予選とフランス大会の悲願の出場として将来的に語りつがれるような背景が必要なのではないだろうか。

サッカーとは世界的に多くのスポーツの中でもそれほど大きなものである。極端な楽観主義や悲観主義から脱却して、確率論的なサッカー的思考形態ができるようになった時、初めて日本サッカーのテクニックや戦術が生かされ世界と戦えるようになると思う。



## 注釈

注1) 日本の植民地支配は、朝鮮のスポーツ選手にも多くの「恨」を残した。それは活躍の場を公平に得ることができないという「恨」である。また活躍の場を得たとしてもあくまでも日本選手として出場しなければならないという民族の誇りを傷つけられることからくる「恨」である。大島裕史『「日韓キックオフ伝説」実業之日本社 1996』

注2) デットマール・クラマー (Dettmar Cramer)

1925年ドイツ生まれ。タバコ製造業者のデットマール・クラマー I 世の長男。第2次世界大戦には落下傘兵としてイタリア戦線に従軍、レニグラードで捕虜になる。戦後ボルシア・ドルトムントの選手。1951年ひざを痛めて引退。ドイツ西部地域協会の主任コーチも務める。日本との契約終了後、FIFAの技術委員となり、世界を巡回するコーチ。1968年には「世界選抜」(対ブラジル代表)の監督も務める。その間にバイエルン・ミュンヘン(75~77)、アイントラハト・フランクフルト(77~78)、バイエル・レバークーゼン(82~85)の監督としてブンデスリーガを戦う。バイエルンではヨーロッパ・チャンピオンズ・カップで2回優勝している。現在はドイツ南部、オーストリアとの国境近くに暮らしFIFAの技術委員として活躍している。

## 引用文献・参考文献

- 加納哲也『サッカー研究(1)』神戸大学発達科学部研究紀要 第8巻1号 2000.  
 日本サッカー協会『日本サッカー75年史』ベースボールマガジン社 1996.  
 村岡博人『伸びゆくアジア その1 ビルマ・マレーシア』サッカーマガジン ベースボールマガジン社 2巻1号 1967.  
 日本蹴球協会編『日本サッカーのあゆみ』講談社 1974.  
 大島裕史『日韓キックオフ伝説』実業之日本社 1996.  
 ベースボールマガジン社編『激動の昭和スポーツ史9(サッカー編)』ベースボールマガジン社 1989.  
 大住良之『サッカーへの招待』岩波新書 1993.  
 後藤健生著『サッカーの世紀』文芸春秋 1995.  
 後藤健生著『世界サッカー紀行』文芸春秋 1997.  
 後藤健生著『日本サッカーの未来世紀』文芸春秋 1997.  
 デズモンド・モリス著 岡野俊一郎監修 白井尚之訳『サッカー人間学』小学館 1983.  
 Dennis Singny『A Pictorial History of SOCCER』London 1968.  
 新田純興・福島玄一・多和健雄・村岡博人『図説サッカー辞典』講談社 1971.

## 日本サッカーに関する年表

| 年号                  | 日本サッカーのあゆみ                                                   | サッカー界のできごと                                                                      |
|---------------------|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 1873年(明治6)          | ・イギリス軍艦<br>東京築地海軍兵学校<br>ダグラス少佐一行来日                           |                                                                                 |
| 1878年(明治11)         | ・体操伝習所の開設                                                    |                                                                                 |
| 1896年(明治29)         | ・東京高等師範(現筑波大学)においてフットボールがおこなわれる                              | 校長:嘉納治五郎が教科としてフット・ボールを採用                                                        |
| 1903年(明治36)         | ・外国人との最初の試合                                                  | 横浜外国人クラブが相手になった(Y.C.A.C)                                                        |
| 1912年(明治45<br>・大正元) | ・第5回オリンピック大会(ストックホルム)                                        | 嘉納治五郎IOC委員<br>選手:田島、金栗(陸上)出場                                                    |
| 1913年(大正2)          | ・第1回東洋オリンピック大会開催(マニラ)                                        | 日本、中国、フィリピンの3国の提案で開催された大会<br>第2回以降「極東選手権大会」と改称                                  |
| 1917年(大正6)          | ・第3回極東選手権大会の開催(東京・芝浦)                                        | 日本における最初の国際試合<br>東京高等師範が推薦出場<br>日本0-5中国<br>日本2-15フィリピン<br>優勝:中国、2位:フィリピン、3位日本   |
| 1918年(大正7)          | ・旧制中学大会の開催(東京、名古屋、豊中)<br>・第1回日本フットボール大会開催                    | 現在の全国高等学校選手権大会の前身<br>優勝 御影師範                                                    |
| 1919年(大正8)          | ・英国蹴球協会(The Football Association: FA)より銀杯の贈呈                 | 英国に日本でもサッカーの全国組織が創立したという誤報が伝わった                                                 |
| 1921年(大正10)         | ・大日本蹴球協会設立<br>・ア式蹴球全国優勝競技大会(東京・日比谷)<br>・第5回極東選手権大会へ初海外遠征(上海) | 初代会長:今村次吉<br>現在の天皇杯全日本選手権大会の前身<br>日本代表として全関東蹴球団(選抜)が出場<br>日本1-3フィリピン<br>日本0-4中国 |
| 1922年(大正11)         | ・大学専門学校4校リーグの開始                                              | 東京高等師範、東京大学、早稲田高等学院、商大                                                          |
| 1923年(大正12)         | ・第6回極東選手権大会(大阪)                                              | 関東大震災<br>大阪クラブが補強して代表チーム<br>日本1-2フィリピン<br>日本1-5中国                               |
| 1924年(大正13)         | ・カレッジリーグが盛んになる<br>・関西学生リーグの開始<br>・明治神宮大会の開催                  | 関東では1・2部制の採用<br>3校リーグ:関西大、神戸高商、関西学院<br>明治神宮外苑競技場(現国立競技場)竣工                      |
| 1925年(大正14)         | ・日本体育協会に加盟<br>・朝鮮蹴球団の来日<br>・大正天皇崩御                           | 朝鮮蹴球の強さ 8戦5勝3分け                                                                 |
| 1926年(大正15<br>・昭和元) | ・第8回極東選手権大会(上海)出場                                            | 日本は早稲田大学を中心とした代表チームで海外の国際試合に初めて勝利<br>日本1-5中国<br>日本2-1フィリピン                      |

|             |                                                     |                                                                                    |
|-------------|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 1927年(昭和2)  | ・大日本体育協会財団法人認可                                      | 大日本蹴球協会は全国に9支部を設置                                                                  |
| 1929年(昭和4)  | ・国際サッカー連盟(FIFA)へ加盟<br>・関東・関西学生リーグ優勝対抗戦              |                                                                                    |
| 1930年(昭和5)  | ・第9回極東選手権大会(東京)                                     | 日本代表に選抜チームを編成し参加<br>中国と同位優勝                                                        |
| 1933年(昭和8)  | ・国際サッカー連盟(FIFA)脱退                                   | 大学チームが単独で海外遠征<br>拓殖大大連遠征<br>関西大学ジャワ遠征                                              |
| 1934年(昭和9)  | ・第10回極東選手権大会(マニラ)                                   | 初めて海外からの国際競技実況中継                                                                   |
| 1936年(昭和11) | ・第11回オリンピック(ベルリン)大会<br>・次期(第12回)オリンピック開催地に<br>東京が決定 | スウェーデンを3:2で破りベスト8                                                                  |
| 1937年(昭和12) | ・日中戦争勃発                                             |                                                                                    |
| 1938年(昭和13) | ・オリンピック東京大会返上                                       | 日中戦争勃発                                                                             |
| 1939年(昭和14) | ・日満華競技大会(東亜競技大会)                                    | 日本優勝(日本代表に金容植を含めた4人の朝鮮半島<br>出身者を含む)<br><br>明治神宮大会を政府(厚生省)主催に移管し「明治<br>神宮国民体育大会」と改称 |
| 1940年(昭和15) | ・東亜競技大会(東京と関西)                                      | 紀元2600年奉祝第11回明治神宮国民体育大会として<br>開催                                                   |
| 1941年(昭和16) | ・戦時色濃厚のため第12回明治神宮国民体育大会の<br>みの開催                    |                                                                                    |
| 1942年(昭和17) | ・「大日本体育協会」を財団法人「大日本体育会」<br>と改称                      | 全ての運動競技団体をその部会とする                                                                  |
| 1945年(昭和20) | ・第二次世界大戦終結                                          | ポツダム宣言受諾<br>朝鮮総督府の解体                                                               |
| 1946年(昭和21) | ・全日本選手権大会復活                                         | 戦争のため中断                                                                            |
| 1947年(昭和22) | ・日本蹴球協会の復活                                          | 第3代目会長:高橋龍太郎                                                                       |
| 1948年(昭和23) | ・全国高等学校体育連盟発足<br>・全日本実業団選手権大会の開催                    | 連合国占領にて戦争責任を問われ国際舞台から閉め<br>出される                                                    |
| 1949年(昭和24) | ・全日本選手権大会復活<br>・第1回国際大学スポーツ大会開催(メラン)                |                                                                                    |
| 1950年(昭和25) | ・FIFAに復帰                                            | 第27回FIFA総会にて決定                                                                     |
| 1951年(昭和26) | ・IOCへ復活<br>・第1回アジア大会開催                              | ニューデリーにて開催 日本3位<br>戦後初の欧州チーム:ヘルシングボリ(スウェー<br>デン)の来日                                |
| 1952年(昭和27) |                                                     | 社会人チームの台頭                                                                          |
| 1953年(昭和28) | ・世界学生選手権大会                                          | 現ユニバーシアード大会がドルトムントで開催                                                              |

## サッカー研究(2) アジア地域における日本サッカーの評価ー

|             |                                                                                                                                                            |                                                                                    |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 1954年(昭和29) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアサッカー連盟(Asian Football confederation: AFC)創立・加盟</li> <li>・W杯(スイス)大会地域予選(東京)</li> <li>・第2回アジア大会(マニラ)</li> </ul>   | 日本1-5韓国<br>日本2-2韓国 1分1敗の成績で予選敗退<br>2戦2敗                                            |
| 1955年(昭和30) |                                                                                                                                                            | 第4代会長: 野津謙                                                                         |
| 1956年(昭和31) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第16回オリンピック(メルボルン)大会地域予選</li> </ul>                                                                                 | 日本2-0韓国<br>日本0-2韓国<br>抽選にて出場権獲得し20年ぶり本大会に出場<br>1回戦敗退 日本0-2豪州                       |
| 1958年(昭和33) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回アジア大会(東京)</li> <li>・日本代表が東南アジアへ武者修行</li> </ul>                                                                  | 日本グループリーグにて敗退(2戦2敗)<br>成績は3勝3分5敗                                                   |
| 1959年(昭和34) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・IOC総会にて1964年第18回オリンピック東京大会を決定</li> <li>・第17回オリンピック(ローマ)大会地域予選の開催(東京)</li> <li>・第1回アジアユース選手権大会開催(アランブール)</li> </ul> | 一次予選で得失点差により韓国に敗退<br>日本0-2韓国<br>韓国1-0日本                                            |
| 1960年(昭和35) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デットマール・クラマーコーチ(西ドイツ)の長期滞在の来日</li> <li>・実業団古河電工が初の天皇杯獲得</li> <li>・早大韓国遠征(対高麗大、延世大)</li> </ul>                       | 日本サッカーを根本的に改革した                                                                    |
| 1961年(昭和36) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・W杯(チリ)大会一次予選(東京)</li> </ul>                                                                                        | (第1戦) 日本1-2韓国<br>(第2戦) 日本0-2韓国                                                     |
| 1964年(昭和39) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第18回オリンピック(東京)大会開催</li> </ul>                                                                                      | 日本は開催国にて出場 ベスト8<br>日本3-2アルゼンチン<br>日本2-3ガーナ<br>日本0-4チェコスロバキア                        |
| 1965年(昭和40) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本サッカーリーグ発足(8チーム) JFL-League</li> <li>・第7回アジアユース選手権大会開催(東京)</li> </ul>                                             | デットマール・クラマーの提言にて日本サッカーの強化を目的とした実業団チームによるリーグの発足                                     |
| 1967年(昭和42) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第19回オリンピック(メキシコ)大会アジア地域予選(東京)</li> </ul>                                                                           | 4勝1分けにて韓国との得失点差で代表権獲得                                                              |
| 1968年(昭和43) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第19回オリンピック(メキシコ)大会</li> </ul>                                                                                      | 日本3-1ナイジェリア<br>日本1-1ブラジル<br>日本0-0スペイン<br>日本3-1フランス<br>日本0-5ハンガリー<br>日本3位、フェアプレー賞受賞 |
| 1969年(昭和44) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・W杯(メキシコ)大会アジア予選(ソウル)</li> </ul>                                                                                    | 2分け2敗にて地域予選敗退                                                                      |
| 1970年(昭和45) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回アジア大会(バンコク)</li> </ul>                                                                                          | 準決勝 日本1-2韓国<br>3位決定 日本0-1インド<br>決勝 韓国0-0ビルマ(両国優勝)<br>日本の成績は4位                      |
| 1971年(昭和46) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第13回アジアユース選手権大会開催(首都圏)</li> <li>・第20回オリンピック(ミュンヘン)大会アジア地域予選(ソウル)</li> </ul>                                        | 日本2勝2敗で代表権はマレーシア                                                                   |
| 1972年(昭和47) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本対韓国定期戦の実現</li> </ul>                                                                                             | 第1回日韓定期戦(東京)<br>日本2-2韓国                                                            |

|                     |                                                                           |                                                                              |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 1974年(昭和49)         | ・財団法人「日本サッカー協会」と改組                                                        | 第3回日韓定期戦(東京)<br>日本4-1韓国                                                      |
| 1976年(昭和51)         | ・第21回オリンピック(モントリオール)大会アジア地域予選(東京)<br><br>・第6回アジアカップ(テヘラン)                 | 日本0-2韓国<br><br>第5回日韓定期戦(東京)<br>日本1-2韓国<br>日本予選3組3位                           |
| 1977年(昭和52)         | ・W杯(アルゼンチン)大会アジア予選<br>ホーム&アウェー方式                                          | 一次予選 日本1分3敗にて敗退                                                              |
| 1978年(昭和53)         | ・FIFAは1979年第2回ワールドユース選手権大会開催地に日本を決定<br>・ジャパンカップの開始                        |                                                                              |
| 1979年(昭和54)         | ・日本女子サッカー連盟正式に発足<br>・第2回ワールドユース選手権大会開催                                    |                                                                              |
| 1980年(昭和55)         | ・第22回オリンピック(モスクワ)大会アジア地域予選(タイ)<br>・W杯(スペイン)大会アジア地域予選                      | 日本はこのモスクワ大会へは全ての競技が不出場だった                                                    |
| 1981年(昭和56)         | ・第1回トヨタカップ開催                                                              | 第9回日韓定期戦(東京)<br>韓国大統領杯(韓国各地)                                                 |
| 1982年(昭和57)         | ・第9回アジア大会(ニューデリー)                                                         | 決勝トーナメント進出(準々決勝)                                                             |
| 1983年(昭和58)         | ・第23回オリンピック(ロスアンゼルス)大会アジア・オセアニア地域一次予選                                     | 日本6戦4勝2敗                                                                     |
| 1984年(昭和59)         | ・第23回オリンピック(ロスアンゼルス)大会アジア・オセアニア地域最終予選                                     | 日本4戦全敗                                                                       |
| 1985年(昭和60)         | ・W杯(メキシコ)大会アジア地域予選<br><br>・ユニバーシアード神戸大会開催<br>サッカーを正式種目として採用 日本4位          | (ブロック予選) 4戦全勝 1位通過<br>(二次予選) 2戦全勝<br>(最終予選) 日本1-2韓国(東京)<br>日本サッカープロ化への気運が高まる |
| 1986年(昭和61)         | ・日本サッカー協会は選手個人のプロ登録を認める<br>・第6回アジアクラブ選手権大会<br>・第2回アジア・アフリカクラブカップ          | 古河電工優勝<br>古河電工準優勝                                                            |
| 1987年(昭和62)         | ・第24回オリンピック(ソウル)大会東アジア地区最終予選<br>・第7回アジアクラブ選手権大会                           | 読売クラブ優勝                                                                      |
| 1989年(昭和64<br>・平成元) | ・第1回FIFA5人制室内サッカー世界選手権開催(アムステルダム)<br>・日本女子リーグスタート<br>・W杯(イタリア)大会アジア一次予選   |                                                                              |
| 1990年(平成2)          | ・第1回全日本ユース選手権大会開催                                                         |                                                                              |
| 1991年(平成3)          | ・プロサッカーリーグ設立準備室発足<br>・「日本プロサッカーリーグ」(Jリーグ)<br>・「社団法人日本プロサッカーリーグ」設立         | 第15回日韓定期戦(長崎)                                                                |
| 1992年(平成4)          | ・第25回オリンピック(バルセロナ)大会アジア地区最終予選(マレーシア)<br>・第10回アジアカップ(広島)<br>・「日本サッカーリーグ」閉幕 | 日本1-0サウジアラビア(優勝)                                                             |

## サッカー研究 (2) - アジア地域における日本サッカーの評価 -

|             |                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | ・ Jリーグ「ナビスコカップ」                                                                                                                                         | ヴェルディ川崎 優勝                                                                                                                                     |
| 1993年(平成5)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本サッカーのプロ化<br/>Jリーグの開幕</li> <li>・ W杯 (アメリカ) 大会アジア地区最終予選<br/>(カタール)</li> <li>・ 第2回U-17世界選手権大会開催 (日本)</li> </ul> | <p>得失点差にて出場権失う (ドーハの悲劇)</p> <p>第29回アジアユース選手権大会にて準優勝しワールドユース選手権大会出場権獲得</p>                                                                      |
| 1994年(平成6)  | ・ 第12回アジア大会 (広島)                                                                                                                                        | ベスト 8                                                                                                                                          |
| 1995年(平成7)  | ・ ユニバーシアード福岡大会                                                                                                                                          | 日本優勝                                                                                                                                           |
| 1996年(平成8)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FIFA総会は2002年W杯の日韓共同開催を決定</li> <li>・ 第26回オリンピック (アトランタ) 大会アジア地区予選において</li> </ul>                                | 出場権獲得                                                                                                                                          |
| 1997年(平成9)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ W杯 (フランス) 大会アジア地域最終予選</li> <li>・ W杯共催記念日韓戦 (東京)</li> </ul>                                                     | <p>アジア枠3 韓国、サウジアラビアは予選にてすでに<br/>出場権を確保していた<br/>第3代表決定のための最終予選<br/>日本1-2韓国 (東京)<br/>韓国0-2日本 (ソウル)<br/>最終的には第3代表決定戦においてイランに勝利して<br/>W杯初出場を決定</p> |
| 1998年(平成10) | ・ W杯 (フランス) 大会出場                                                                                                                                        | <p>予選リーグ (H-Group)<br/>日本0-1アルゼンチン<br/>日本0-1クロアチア<br/>日本1-2ジャマイカ<br/>予選3戦3敗</p>                                                                |

